

| 特集 1 |

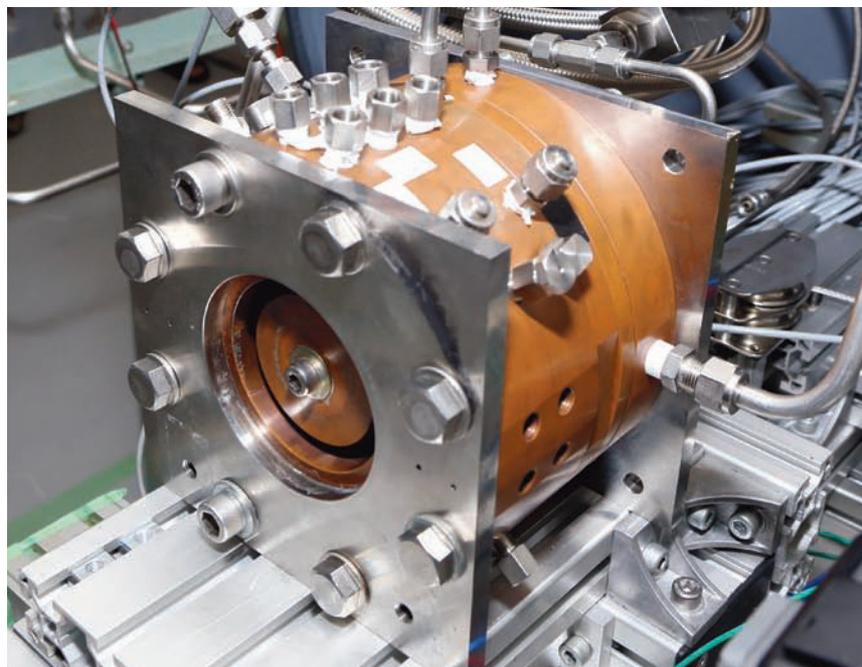
テクノ・フェア名大2018を開催

早川 直樹 社会連携委員長

| 特集 2 |

プラズマバイオコンソーシアムの設立

大野 哲靖 プラズマナノ工学研究センター長・教授





金属3Dプリンタによる扇形爆豪燃焼器

高速演算並列計算機

開発中の分光用赤外レーザー

ミドリムシの継代の様子

01 **【特集1】**
テクノ・フェア名大2018を開催
早川 直樹 社会連携委員長

07 **【特集2】**
プラズマバイオコンソーシアムの設立
大野 哲靖 プラズマナノ工学研究センター長・教授

08 **【工学研究科ニュース】**
① 平野真一名誉教授が平成30年春の叙勲～瑞宝大綬章【教育研究功労】～を受章
② マイクロ・ナノメカトロニクス研究センターセミナーを開催
③ 未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム
(平成30年度卓越大学院プログラムに採択)
④ 平成30年度オープンキャンパス工学部企画、工学部懇話会等を開催

10 **【未来の研究者】**
「レーザーで難分析放射性核種を測る
～中赤外レーザー分光による放射性炭素分析法の開発～」
寺林 稜平 エネルギー理工学専攻 博士後期課程2年

「オンチップ細胞分取技術～高い生存率で大きな細胞の高速分取を達成～」
笠井 宥佑 マイクロ・ナノ機械理工学専攻 博士後期課程2年

12 **【名古屋大学工学研究科 研究紹介】**
「結晶中の原子配列の乱れを科学する」
松永 克志 物質科学専攻 教授

「爆轟波をより身近なものに、そして宇宙へ」
松岡 健 航空宇宙工学専攻 講師

14 **【工学研究科データボックス】**
平成30年度学生数・留学生数
平成29年度工学部卒業生・工学研究科修了生の進路
受賞一覧(平成30年度前期 一部平成29年度後期)

20 **【工学部・工学研究科支援基金案内】**



日時：平成30年10月20日(土)10:30-15:30

会場：名古屋大学・IB電子情報館中棟1階

- 内容：
- 研究成果・研究シーズのブース展示
10:30～15:30
 - ショートプレゼンテーション
11:00～12:05
 - 工学部全7学科から最新のトピックスに関するセミナー
11:00～11:50、12:50～15:00
 - 研究室見学
10:30～15:30

主催：名古屋大学大学院工学研究科

共催：大学院医学系研究科、大学院環境学研究所、大学院情報学研究所、大学院創薬科学研究所、大学院理学研究科、高等研究院、トランスフォーメティブ生命分子研究所、未来材料・システム研究所、シンクロトン光研究センター、減災連携研究センター、ナショナルコンポジットセンター、未来社会創造機構、予防早期医療創成センター、学術研究・産学官連携推進本部

後援：総務省東海総合通信局、経済産業省中部経済産業局、愛知県、名古屋市、一般社団法人中部経済連合会、名古屋商工会議所、公益財団法人中部科学技術センター、公益財団法人科学技術交流財団、公益財団法人名古屋産業振興公社、中部エレクトロニクス振興会、公益財団法人ソフトピアジャパン、独立行政法人中小企業基盤整備機構名古屋医工連携インキュベータ、名古屋大学協会、中日新聞社、日刊工業新聞社

協賛：公益財団法人 名古屋産業科学研究所

工学部及び大学院工学研究科は、10月20日(土)、IB電子情報館をメイン会場とし、関連研究科等との共催で、「テクノ・フェア名大2018」を開催しました。

テクノ・フェア名大は、本学研究者による研究成果及び研究シーズ(種)を、ブース展示、研究室見学等を通じて発信し、産業界や地域社会と密接な交流を図ることを目的に、平成11年から実施しています。また、特に研究成果を広く一般の方にも紹介するため、昨年度から、名古屋大学ホームカミングデイとの同日開催としています。

メイン会場となるIB電子情報館中棟1階廊下で実施されたブース展示には、29テーマが出展され、廊下いっぱいには並んだブースは見応えがありました。ホームカミングデイ企画の工学部・工学研究科保護者等懇談会に参加された方をはじめ、多くの来場者が足を止め、日ごろ研究室で行われている研究の説明を聞いていました。

また、当日のブース展示のうち13のテーマについて、1テーマ5分のショートプレゼンテーション形式で研究成果の紹介が行われました。さらに、今回初めての試みとして、工学部の全7学科から最新のトピックスに関するセミナー(各25分)が実施され、多くの聴講者が最先端の研究成果に熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が行われていました。また、16研究室で研究室見学が企画され、最新の研究成果の話の聞いたり、実験設備を間近で見たたりして、参加者は研究室の雰囲気を楽しむことができました。今回の参加者は、約500名となり、盛況のうちに閉会しました。



セミナーでの講師



セミナー会場の様子

セミナー

時間	講師	所属・職名	演題
11:00～11:25	長谷川 正	物理工学科／教授	物理工学の最前線
11:25～11:50	加藤 準治	環境土木・建築学科／教授	トポロジー最適設計と 3Dプリンティングによる次世代型ものづくり
12:50～13:15	石原 一彰	化学生命工学科／教授	研究開発物語 「かたちあるプロトン酸(H ⁺)触媒を分子設計する」
13:15～13:40	塩川 和夫	電気電子情報工学科／教授	オーロラの科学
13:40～14:05	高見 誠一	マテリアル工学科／教授	セラミックスナノ粒子の合成と 幾何学による材料設計
14:05～14:30	秦 誠一	機械・航空宇宙工学科／教授	マルチスケール・マルチ材料3D造形技術
14:30～14:55	吉橋 幸子	エネルギー理工学科／准教授	加速器型中性子源におけるターゲット材料開発

ショートプレゼンテーション

時間	講師	所属・職名	演題
11:00～11:05	加藤 準治	土木工学専攻／教授	トポロジー最適設計による次世代型ものづくり
11:05～11:10	石原 一彰	有機・高分子化学専攻／教授	触媒の匠工房
11:10～11:15	鳥本 司	応用物質化学専攻／教授	低毒性元素からなる 半導体ナノ粒子の液相合成と光機能
11:15～11:20	黒川 康良	物質プロセス工学専攻／准教授	変換効率向上を目指した 革新的シリコンベース太陽電池材料の研究
11:20～11:25	山本 真義	未来材料・システム研究所／教授	ハイブリッド航空機における電動化技術最前線
11:25～11:30	岩田 聡	未来材料・システム研究所／教授	情報テクノロジーを支えるナノスピンの スピントロニクスデバイス
11:30～11:35	佐藤 理史	情報・通信工学専攻／教授	大学入試問題を対象とした人工知能研究
11:35～11:40	櫻井 淳平	マイクロ・ナノ機械理工学専攻／ 准教授	材料加工で拓くマイクロ・ナノの世界 ～材料創製からデバイス応用まで～
11:40～11:45	堀 勝	電子工学専攻／教授	人工オーロラに触れよう!
11:45～11:50	岩田 聡	未来材料・システム研究所／ 教授	名古屋大学の機器を使ってみませんか ～微細加工プラットフォーム～
11:50～11:55	坂口 佳充	生命分子工学専攻／ 特任教授	名古屋大学の装置を使ってみませんか ～分子・物質合成プラットフォーム～
11:55～12:00	荒井 重勇	超高压電子顕微鏡施設／ 特任教授	名古屋大学の装置を使ってみませんか ～微細構造解析プラットフォーム～
12:00～12:05	塩川 和夫	宇宙地球環境研究所／教授	オーロラと超高層大気の科学

特集1



ショートプレゼンテーションの様子①



ショートプレゼンテーションの様子②

研究シーズ・研究成果展示				
	分類	出展タイトル	主催	出展者
①	材料	触媒の匠工房	有機・高分子化学専攻	石原 一彰(代表)、波多野 学、UYANIK Muhammet、堀部 貴大
②	材料 (バイオテクノロジー、エネルギー)	低毒性元素からなる半導体ナノ粒子の液相合成と光機能	応用物質化学専攻	鳥本 司(代表)、亀山 達矢
③	材料	有機分子材料・ナノ電子材料の顕微分光解析	応用物理学専攻	岸田 英夫(代表)、小山 剛史、中村 優斗
④	材料	カーボンナノチューブへの分子内包による機能発現	応用物理学専攻	小山 剛史(代表)、岸田 英夫、中村 優斗
⑤	材料	超高压力発生技術と材料開発	物質科学専攻	丹羽 健(代表)、長谷川 正、佐々木 拓也
⑥	材料	変換効率向上を目指した革新的シリコンベース太陽電池材料の研究	物質プロセス工学専攻	宇佐美 徳隆(代表)、黒川 康良、後藤 和泰、Van Hoang Nguyen
⑦	エネルギー	GaN半導体を適用した世界最高電力密度インバータ	未来材料・システム研究所	山本 真義
⑧	環境	オーロラと地磁気を測る	宇宙地球環境研究所	塩川 和夫
⑨	情報通信	工学部で学ぶ宇宙の研究	宇宙地球環境研究所	三好 由純
⑩	その他(半導体・医療)	人工オーロラに触れよう!	電子工学専攻	堀 勝(代表)、石川 健治、近藤 博基、堤 隆嘉
⑪	材料	情報テクノロジーを支えるナノスピンのスピントロニクスデバイス	未来材料・システム研究所	岩田 聡(代表)、加藤 剛志
⑫	情報通信	大学入試問題を対象とした人工知能研究	情報・通信工学専攻	佐藤 理史(代表)、松崎 拓也、宮田 玲
⑬	エネルギー	バイオマス・廃棄物のエネルギー利用	未来材料・システム研究所	成瀬 一郎(代表)、義家 亮、植木 保昭
⑭	機械・航空	ものづくり・歩行・情報提示・リハビリを支援するロボティクス技術	機械システム工学専攻	岡本 正吾
⑮	機械・航空	グリーンイノベーションを志向する機能性表面創製・評価技術の最先端	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	梅原 徳次(代表)、野老山 貴行、村島 基之
⑯	機械・航空	高クヌッセン数流れのミクロスケール・アナリシス	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	山口 浩樹
⑰	機械・航空	表面・界面設計のためのナノ計測	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	福澤 健二(代表)、伊藤 伸太郎、東 直輝
⑱	機械・航空	マイクロ・ナノメカトロニクスの最新技術紹介	マイクロ・ナノメカトロニクス研究センター	新井 史人(代表)、丸山 央峰、佐久間 臣耶
⑲	機械・航空	微細加工技術とロボット技術を用いた医用機械システム	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	新井 史人(代表)、丸山 央峰、佐久間 臣耶
⑳	機械・航空	材料加工で拓くマイクロ・ナノの世界～材料創製からデバイス応用まで～	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	秦 誠一(代表)、櫻井 淳平、岡 智絵美
㉑	その他(分析)	元素/同位体選択的レーザー共鳴イオン化とその応用	エネルギー理工学専攻	富田 英生(代表)、井口 哲夫、Volker Sonnenschein
㉒	土木・インフラ	トポロジー最適設計と3Dプリンティングによる次世代型ものづくり	土木工学専攻	加藤 準治(代表)、北根 安雄
㉓	土木・インフラ	大規模災害における廃棄物の災害外力・地域特性に応じた処理技術・管理システムに関する研究	土木工学専攻	中野 正樹(代表)、酒井 崇之
㉔	土木・インフラ	地盤構造物の建設/維持管理/減災・防災を支える高度数値解析技術	減災連携研究センター	野田 弘弘(代表)、中野 正樹、山田 正太郎、中井 健太郎

研究シーズ・研究成果展示

	分類	出展タイトル	主催	出展者
25	土木・インフラ	インフラ鋼構造物の新しい健全性評価と補修補強技術	土木工学専攻	北根 安雄(代表)、加藤 準治
26	その他(加速器、材料、バイオテクノロジー、産学官連携)	研究開発へのシンクロトン光利用のすすめ	シンクロトン光研究センター	曾田 一雄
27	その他(研究・開発支援、機器共用)	名古屋大学の機器を使ってみませんか ～微細加工プラットフォーム～	未来材料・システム研究所	岩田 聡(代表)、加藤 剛志、大住 克史
28	その他(研究・開発支援、機器共用)	名古屋大学の装置を使ってみませんか ～分子・物質合成プラットフォーム～	生命分子工学専攻	馬場 嘉信(代表)、坂口 佳充
29	その他(研究・開発支援、機器共用)	名古屋大学の装置を使ってみませんか ～微細構造解析プラットフォーム～	超高压電子顕微鏡施設	山本 剛久(代表)、荒井 重勇

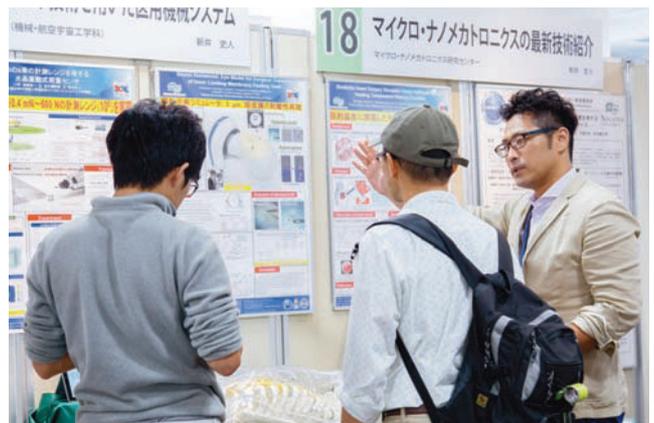
研究室見学

	学科等／研究室	見学施設	見学内容	見学時間
1	化学生命工学科／触媒有機合成学研究室(石原一彰教授)	工学研究科1号館7階719号室	研究室の見学。研究室見学前に以下のイベントにもご参加頂くと分かりやすいかと思います。午前中に出展のショートプレゼンをします。午後からセミナーでプレゼンします。	13:45～14:15 14:45～15:15
2	未来材料・システム研究所／パワーエレクトロニクス	先端技術共同研究施設新館2階251室	パワーエレクトロニクスとは電力変換を扱う工学分野です。近年、様々な移動体で電動化が進む中、この学術分野の発展は産業的にも将来の自然環境に対しても極めて重要です。本研究室ではパワーエレクトロニクスの中でも電動航空機や電動化車両向けのモータ駆動用電力変換機器を中心とした研究を行っています。研究室見学ではそれらの研究内容について簡単にご説明した後、実際の実験設備の見学と簡単な実験の実演を予定しています。	13:00～13:30 13:40～14:10 14:20～14:50 15:00～15:30
3	電気電子情報工学科／塩川研究室	工学部7号館B棟1階701講義室	私たちの研究室では、世界一の多地点高感度カメラや大型レーダーを使ってオーロラや地球周辺の宇宙空間を観測し、超高層大気と呼ばれる「大気のとっぺん」から宇宙空間に続いていく高さの環境を研究しています。この高さは、オーロラが光っていると同時に、国際宇宙ステーションや人工衛星が飛んでいるところでもあります。私たちの研究は、まだまだ未知のことが多いこの領域の環境を明らかにするとともに、人工衛星の安全な運用にも役立っています。今回の見学では、講義室でスライドを使って、随時質問も受け付けながら、私たちの研究を紹介していきます。	10:30～11:30 14:30～15:30
4	電気電子情報工学科／堀・石川研究室	ナショナル・イノベーション・コンプレックス(NIC)4階	低温プラズマが我々人類が近い将来直面する問題をどのように解決していくのかを、プラズマナノ工学研究センターが所有する100以上の世界でここにしかない装置を見学しながら説明します。人工オーロラである低温プラズマを用いたデモも準備しています。大学教員はもちろん現役大学生・院生もいますのでお気軽に質問してください。	10:30～11:15 14:30～15:15 15:15～16:00
5	電気電子情報工学科／佐藤・松崎研究室	IB電子情報館南棟164	佐藤・松崎研究室では、自然言語処理や人工知能の研究を行っています。本見学会では、これらの研究の概要をビデオ等で紹介するとともに、いくつかのシステムのデモンストレーションをお見せします。	11:00～11:30 12:00～12:30 13:00～13:30 14:00～14:30
6	機械・航空宇宙工学科／統計流体工学研究室	機械学科実験棟1階	研究内容の紹介、及び風洞実験と水槽実験の実演を行います。	13:00～13:20 13:30～13:50 14:00～14:20 14:30～14:50

特集1

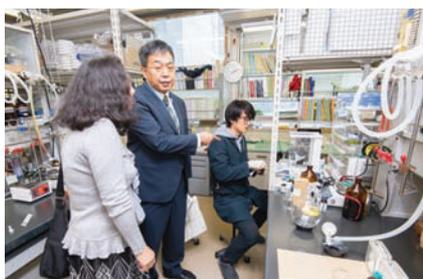


展示ブースでの様子①

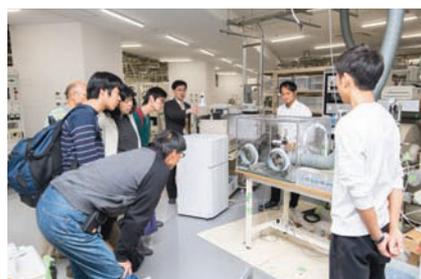


展示ブースでの様子②

研究室見学				
	学科等/研究室	見学施設	見学内容	見学時間
7	機械・航空宇宙工学科/ 動的システム制御	工学部2号館 222号室	ダイナミクスをデザインするための基盤となる「数理モデリング」と「システム制御理論」の基礎と最新の研究成果を紹介します。	10:00 ~ 14:00 の間で随時
8	機械・航空宇宙工学科/ モビリティシステム 研究グループ	工学部2号館 114号室	当研究室では、知能化機械と人間の共生を目指したモビリティの幅広い研究課題に取り組んでいます。研究室見学では私たちが取り組んでいる研究課題について、実機を使ったデモを通して説明します。具体的には、(1)ドライバーの運転特性に基づく自動運転、高度運転支援、(2)車載蓄電池を活用したエネルギーマネジメントシステム、(3)自律型多脚移動ロボットと個人型スマートモビリティについて紹介します。	11:00 ~ 11:30 13:00 ~ 13:30 14:00 ~ 14:30 15:00 ~ 15:30
9	機械・航空宇宙工学科/ 梅原研究室	工学部7号館 A棟101室	梅原研究室は、機能表面の創製や評価技術の開発を通じてグリーンイノベーションを目指します。炭素系硬質薄膜の摩擦・摩耗メカニズムを解明するために普段使用している、摩擦試験機、その場観察装置、環境型電子顕微鏡などの装置を当日見学頂きます。また、治具などを製作している研究室のワークショップの見学も予定しております。	10:30 ~ 11:00 11:00 ~ 11:30 13:00 ~ 13:30 13:30 ~ 14:00
10	機械・航空宇宙工学科/ 材料強度・評価学研究 グループ(巨研究室)	工学部2号館 255室	ナノワイヤ面ファスナーの創製:ナノワイヤは集積が進む電子デバイスなどへの応用が期待されています。本研究は機能性ナノワイヤ面ファスナーの創製を目指しています。金属表面上の疲労き裂の修復技術の開発:疲労き裂への電流印加により、き裂の修復を図り、そのメカニズム解明を目指しています。マイクロ波原子間力顕微鏡の開発:導電率、誘電率、透磁率等の電気的特性をサブマイクロオーダーで検出する装置の開発を目指しています。	10:00 ~ 10:30 11:00 ~ 11:30 13:00 ~ 13:30 14:00 ~ 14:30
11	機械・航空宇宙工学科/ 福澤研究室	工学部2号館 232室	・ナノ厚さ液体/固体膜およびナノ隙間のリアルタイム可視化技術(エリブソメトリー顕微鏡) ・ナノスケールの摩擦分布の二次元マッピング技術:独自の構造を有したマイクロプローブの開発(マイクロメカニカルプローブ) ・ナノレオロジー計測技術:高感度な剪断断力測定法によるナノ厚さ液体膜、高分子表面、微小液滴を対象としたナノレオロジー計測の実現(ファイバーウォーピング法)	13:00 ~ 13:30 14:00 ~ 14:30
12	機械・航空宇宙工学科/ 新井研究室	航空・機械実験棟 3階311室	MEMSとナノテクノロジーを基盤としたロボティクス・メカトロニクスとバイオメディカル応用に関する研究を行っています。磁気駆動マイクロアクチュエータ、バイオアクチュエータ、マイクロ流体チップ、バイオニックヒューマノイド、医療用マイクロデバイス、水晶振動子を用いたワイドレンジ小型力センサ、オンチップロボットによるマイクロ流体チップ内での高速細胞操作・計測・加工、希少細胞のダメージレス高速分離・分注などについて紹介します。また、この機会にMEMS技術や微細加工(フォトリソグラフィ、ウェット・ドライエッチング)、マイクロ流体チップの製作、システム構築について技術的な相談に応じます。	11:00 ~ 11:30 11:30 ~ 12:00 13:00 ~ 13:30 13:30 ~ 14:00 14:00 ~ 14:30 14:30 ~ 15:00 15:00 ~ 15:30
13	機械・航空宇宙工学科/ 知能ロボット学研究室	航空・機械実験棟 2階215室	「人の意思を瞬時に推定し適切な支援を行う人支援ロボット」や「離れた場所でロボットを操作するテレオペレーションシステム」等のデモンストレーションとそれらの基盤技術の説明を行います。	11:00 ~ 11:30 12:00 ~ 12:30 13:00 ~ 13:30 14:00 ~ 14:30
14	機械・航空宇宙工学科/ 秦研究室	工学部3号館 212号室	秦研究室では、MEMS (Micro Electro Mechanical Systems: 微小電子機械システム)など微小な集積機械デバイスを実現するために、新しい微細加工法やMEMS用新材料開発も含めた横断的な研究を行っています。 1. MEMS・マイクロセンサ 2. コンピナトリアル法によるMEMS用機能性材料・エネルギー材料探索	10:00 ~ 10:30 11:00 ~ 11:30 13:00 ~ 13:30 14:00 ~ 14:30 15:00 ~ 15:30
15	エネルギー理工学科/ 井口・富田研究室	工学部5号館 5階5-560室	レーザー共鳴イオン化に用いる高繰り返し率波長可変パルスレーザー、レーザー共鳴イオン化質量分析装置の見学を行います。	11:00 ~ 11:30 13:30 ~ 14:00
16	環境土木・建築学科/ 橋梁長寿命化推進室	N2U-BRIDGE (ニューブリッジ)	経年劣化橋梁を集めた実大橋梁モデルの概要(インフラの劣化状況)と、インフラの維持管理の際に必要な劣化評価技術や非破壊診断技術を紹介します。	13:00 ~ 13:40 14:00 ~ 14:40



研究室見学①



研究室見学②



研究室見学③

プラズマバイオコンソーシアムの設立

プラズマナノ工学研究センター長・教授 大野 哲靖

基礎プラズマ研究の進展により、大気中で高密度低温プラズマ生成法が確立し、プラズマと生命体との相互作用研究が可能となりました。プラズマ照射が生命体の成長過程に大きな影響を与えることが発見され、応用分野への展開が期待されています。これまでもプラズマは分野横断型研究を推進するハブとなってきましたが、プラズマバイオコンソーシアムでは、プラズマ科学、基礎生物学・生理学、医学、農学分野の研究者を繋ぐ、新たな「プラズマバイオサイエンス」分野と研究コミュニティの構築を目指しています。

分子生物学をベースとした動物系・植物系双方のプラズマバイオ基礎研究が行われます。



プラズマバイオコンソーシアムの概要

プラズマバイオコンソーシアムは、名古屋大学、九州大学、自然科学研究機構で構成されています。名古屋大学では、プラズマナノ工学研究センター／プラズマ医療科学国際イノベーションセンターにおいて、主に動物系のプラズマバイオ研究を担当します。波長可変レーザーを用いた大気圧プラズマ中の電子や活性種の挙動の時空間分解計測やプラズマ照射した液体（プラズマ活性溶液）中の化学種の実時間計測を行い、それらを応用して、卵巣癌や胃癌などによる腹膜播種性転移の治療や眼科系疾患である加齢黄斑変性治療の研究を進めています。また、九州大学プラズマ界面工学センターでは、主に植物系プラズマバイオ研究を担当し、種子へのプラズマ照射による稲の成長促進効果などの研究を行います。一方、これらのプラズマが生物に及ぼす不思議な効果を実際の応用に発展させるためには、現象の基礎過程を細胞レベルで理解する必要があります。自然科学研究機構は宇宙、物質、エネルギー、生命の自然科学分野研究を担う5つの大学共同利用機関で構成されており、岡崎地区の基礎生物学研究所、生理学研究所では最先端のバイオ研究が行われています。自然科学研究機構の新分野創成センター内に設置されたプラズマバイオ分野において、



発足記念式典での記者会見の様子。左から井本敬二（自然科学研究機構・新分野創成センター長・教授）、堀勝（プラズマ医療科学国際イノベーションセンター長・教授）、大野哲靖（プラズマナノ工学研究センター長・教授）、白谷正治（九州大学プラズマナノ界面工学センター長・教授）

また、プラズマバイオコンソーシアムでは、他大学・他研究機関との共同研究も積極的に実施し、全国の研究者と連携して、分野の垣根を越えたプラズマバイオ研究を全日本体制で推進します。

平成30年6月1日に自然科学研究機構において協定書の署名式が行われ、井本敬二教授（自然科学研究機構・新分野創成センター長）を運営委員会議長とした、プラズマバイオコンソーシアムが発足いたしました。7月23日に名古屋大学東山キャンパスにて、松尾清一総長、佐々木裕之九州大学副学長、小森彰夫自然科学研究機構長の来席のもと、発足記念式典が開催されました。さらに9月14日には、九州大学伊都キャンパスにて第1回プラズマバイオコンソーシアムワークショップが開催され、堀勝教授（プラズマ医療科学国際イノベーションセンター長）、白谷正治教授（九州大学プラズマナノ界面工学センター長）、西谷基宏教授（自然科学研究機構生理学研究所）など、第一線の研究者による基調講演が行われました。

今後、プラズマバイオコンソーシアムにおけるプラズマ科学と生命科学の融合研究により、新しい学術分野の創成と安心安全な未来社会構築に貢献したいと考えております。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



発足記念式典での松尾総長の挨拶



① 平野 眞一名誉教授(元総長)が平成30年春の叙勲 ～瑞宝大綬章【教育研究功労】～を受章

平成30年春の叙勲において、平野 眞一名誉教授(元総長)が瑞宝大綬章を受章(発令日:平成30年4月29日)されました。瑞宝章は、国家又は公共に対して功労のある方のうち、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与され、瑞宝大綬章はその中でも最高位の位置づけです。

平野名誉教授(元総長)は教授として長きにわたり名古屋大学の教育研究に尽力するとともに、平成15年4月から平成16年3月まで工学研究科長及び工学部長を務めるなど、工学研究科及び工学部の教育・研究の発展に貢献をした後、平成16年4月の国立大学法人化と同時に名古屋大学総長に就任しました。

かつてない変革期中、平野名誉教授(元総長)は「学長とは、教員、職員、学生をひきつける言わば磁石であって、その合力としての力が発揮できるような環境づくりが一番大切である。」という信念のもと、直面する多くの課題と向き合いながら、教職員一人一人を尊重した上でのリーダーシップを発揮し、構成員からの絶大な支持の下、国立大学法人としての名古屋大学の運営の基礎を築くとともに、教育・研究環境の充実、産学連携・国際交流・地域貢献、男女共同参画の環境整備等、多角的な方面で功績を残し、平成21年3月までの5年間の任期を全うされました。

無機材料化学分野の研究においては、水熱合成法、金属有機分子の設計と合成から機能性セラミックを製造する新手法の開発に貢献し、また国際セラミック連盟会長、日本セラミックス協会会長として学界の発展に尽くしました。

本学退職後も、大学教育に関する豊かな識見を高く評価され、独立行政法人大学評価・学位授与機構(当時の機構長に就任し、以後平成24年3月までの3年間にわたり、我が国の大学等に対する第三者評価の発展に先導的な役割を果たすのみならず、評価事業及び学位授与事業の発展に大きな役割を果たしました。

平野名誉教授(元総長)の今後のご健勝とますますのご活躍を祈念いたします。



② マイクロ・ナノメカトロニクス研究センターセミナー開催

東京工業大学の森政弘名誉教授による講演会が、マイクロ・ナノメカトロニクス研究センターセミナーとして開催されました。森先生は、世界に先駆けてロボット研究分野を開拓し、不気味の谷現象の発見者、また、ロボットコンテスト創始者として広く知られています。また、本学の電気学科9年生でもあります。

講演のタイトルは、「心を故郷へ帰すー今後の科学技術に絶対必要なことー」でした。幼少期から物作りに没頭していた先生は、学生時代には名フィルでフルートを演奏し、その後は本田宗一郎氏とも交流が深かったそうです。そういった数々の場面で、先生は常に主体的な「遊」の姿勢を貫き、合理だけでは解けない矛盾を、智慧によって乗り越えてきました。智慧を身につけるには、知識を蓄える座学だけではなく、対象と自己の境界がなくなるほど物事に没頭する「三昧」の体験が必要だそうです。

特に、科学技術の進歩がもたらした現代の危機的状況に対しては、鋭い指摘がありました。それは、自然の本性は、流動・循環・制御であるが、現代では、循環が滞り、制御が失われている、ということです。これに対し、今後の科学技術を担う研究者は、「自然は全きもの」

未来社会創造機構 特任准教授 上出 寛子

という畏敬の念と、人間の欲望を制御する重要性を強く意識する必要があります。私たち研究者が、人間の故郷である自然へと心を帰す必要性について、名古屋で育った森先生が、故郷に帰って講演したという、非常に貴重な機会となりました。



講演の様子

③ 未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム (平成30年卓越大学院プログラムに採択)

プログラムコーディネーター 天野 浩
未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター センター長・教授

「卓越大学院プログラム」では、海外トップ大学や民間企業等の外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムの構築が求められています。これに答えるべく工学研究科の電気系、マテリアル系、機械系、物理系の専攻が中心となって提案していたプログラムが、めでたく選定されました(2018年10月3日公表)。

この未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラムが生まれたきっかけは、プログラムコーディネーターがシリコンバレーで、青色LEDでは発明からイノベーションに至るまで30年かかったという内容の講演をしたとき、投資家の方から、「投資家は10年が限度である。」というご指摘を受けたことから始まります。

その後、大学での人材育成の在り方及び企業が必要とする人材像について、産業界と大学が一緒になって議論を重ねました。その結果、「学生の間にビジネスに関する経験を積むことが一番効果がある」という結論に至りました。研究のほかに開発や社会実装の経験を積むと前課程2年では足りません。ほとんどすべての企業の担当の方々は、在学中に企業と一緒に研究・開発・実用化の経験を積んだ後課程学生であれば、是非うちの会社に来てほしい、とのご意見でした。

そこで不足するのは起業経験です。このような経緯から起業支援企業の方々も参加されることになり、Deployer-Innovator-Investigatorを輩出するためのプログラムが出来上がりました。起業も含めて三位一体で行うプログラムは世界で初めてと思われます。しかも、その目的は教育というよりも、様々な問題解決のために、最先端の研究成果をいち早く社会実装を行うことのできる実践の場です。学生のチャレンジを支えるのはDeployer、Innovator、Investigatorそれぞれのメンターであり、担当者は、研究・開発・社会実装を実際に体験するにはこれ以上ない環境を提供している、と自負しております。



④ 平成30年度オープンキャンパス工学部企画、工学部懇話会等を開催

工学部は、8月8日(水)にオープンキャンパス工学部企画及び工学部懇話会を開催しました。

オープンキャンパス工学部企画では、学部長をはじめとする教職員や在学生が一体となり、工学部全7会場で、学部・学科の教育・研究の特色や魅力、さらには各種の活動等の紹介、模擬講義、及び研究室見学等が行われ、参加者は、現在進行中の教育・研究の現場を体験し、その中で活躍している在学生や教職員との直接対話を通して、志望する学部・学科の状況等を直接肌で感じ取っていました。

工学部懇話会では、高校の進路指導担当教諭を対象に、「名大

工学の3+3+3型教育システム」をテーマとし、東海・北陸、関西地区等から計7県44校、53名の教諭が参加しました。懇話会では、水谷工学部長による「名大工学の3+3+3型教育システム」の概要説明、7学科紹介、入試・進路等に関する20項目超の質疑応答がありました。また博士後期過程の皇甫度均さん(韓国人留学生)と同3年の小田切公秀さんが、学生生活や研究の面白さ等を紹介し、参加者から「学生生活や研究の様子がよく分かり進路指導に大変役立つ」等の感想を頂きました。研究室見学では、院生との対話等を通じて学生の成長にも直に接して頂く等、高校教諭の先生方に工学部の教育・研究活動の魅力を十分にご理解頂きました。



オープンキャンパス工学部企画の様子



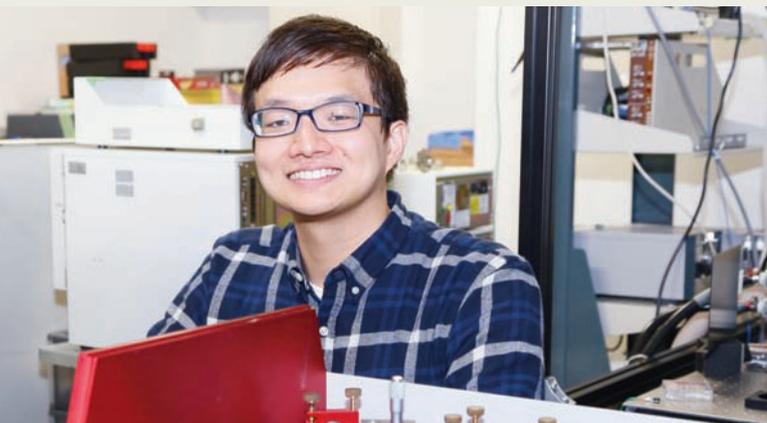
工学部懇話会で教育研究の概要を説明する水谷工学部長

8月8日(水)	
オープンキャンパス 工学部企画	3,088名
工学部懇話会	53名
8月9日(木)	
クノフロンティアセミナー	40名
テクノサイエンスセミナー	42名



未来の研究者

The Researchers of The FUTURE



Terabayashi Ryohei

寺林 稜平 てらばやし りょうへい

FILE
No.49

工学研究科 エネルギー理工学専攻
博士後期課程2年

1992年生まれ

2017年3月 名古屋大学工学研究科 博士課程(前期課程)修了

2017年4月 名古屋大学工学研究科 博士課程(後期課程)進学

2018年4月 日本学術振興会 特別研究員(DC2)採用

レーザーで難分析放射性核種を測る～中赤外レーザー分光による放射性炭素分析法の開発～

放射線を放出する放射性物質のうち長い時間をかけてゆっくりと減衰する長半減期核種は、原子力発電所などの核施設の運用・廃止をはじめ様々な領域に分析ニーズが存在します。これらの長半減期核種分析のためには、放射線計測に代わり、質量分析やレーザー分光など原子数を直接計数する手法が有効となります。特にレーザー分光による手法は、対象核種固有のエネルギー準位に相当する波長を持った狭帯域レーザーを用いることで対象核種を選択的に分析することができ、質量分析で問題となる同重体の干渉を受けない分析が可能です。私は特に放射性炭素(^{14}C)を対象とし、中赤外レーザー吸収分光に基づく新規放射性炭素分析システムを開発を行っています。

炭素の天然同位体のうち唯一の放射性同位体である ^{14}C (β 崩壊核種、最大エネルギー:0.155 MeV、半減期:約5730年)は1950年代から約10年にわたって実施された大気圏内核実験によってその濃度が1,000倍程度上昇した特異な同位体でもあります。このような性質を活かし ^{14}C をトレーサーとして利用する研究が環境学・植物動態学・医学など様々な領域でなされています。一方で、トレーサー応用に必要とされる天然同位体比程度までの微量 ^{14}C 分析に適した分析手法が存在せず、加速器を用いた大がかりな質量分析装置を使用しているのが現状です。本研究では既存の分析法に代わる新たな手法として、中赤外キャビティリングダウン吸収分光法に基づく ^{14}C 分析システム(^{14}C -CRDS、図1)を開発し、天然同位体比程度の高い感度と迅速・簡便・低コストを兼ね備えた ^{14}C 分析法として、多領域におけるトレーサー応用に適用することを目的としています。

開発を進めている ^{14}C -CRDSは試料中炭素を二酸化炭素化する試料導入系、狭帯域で高安定な中赤外レーザーによる光源系、光共振器を伴った分析セル、信号検出・処理系の4つの系から構築され、 ^{14}C を含んだ二酸化炭素のスペクトルを測定することで ^{14}C の定量分析が可能です。これまでに ^{14}C 定量分析を実証し、天然同位体比にあと一桁まで迫る高い感度を実現してきました(図2 [1])。

現在は、感度向上を目指して取り組んでいると同時に、医薬品開発メーカーや分析機器メーカー、植物生理学の研究者などと協力し、 ^{14}C -CRDSを多領域に適用する研究を進めています。今後も一人の研究者として、そしてアイデアを実現するエンジニアとして社会に貢献できるよう、精進していきます。

[1] V. Sonnenschein et al., Journal of Applied Physics 124, 033101 (2018).

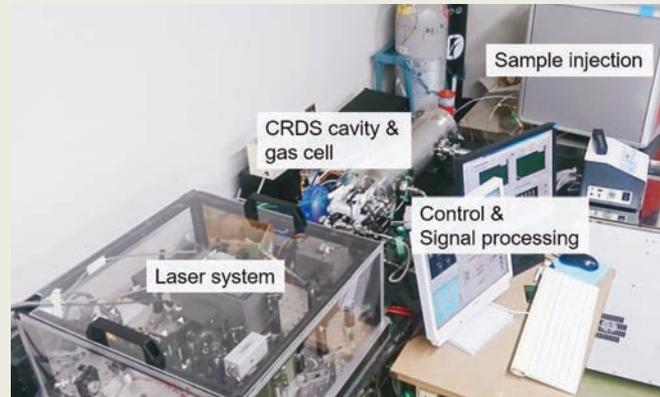


図1 ^{14}C -CRDSシステムの概要

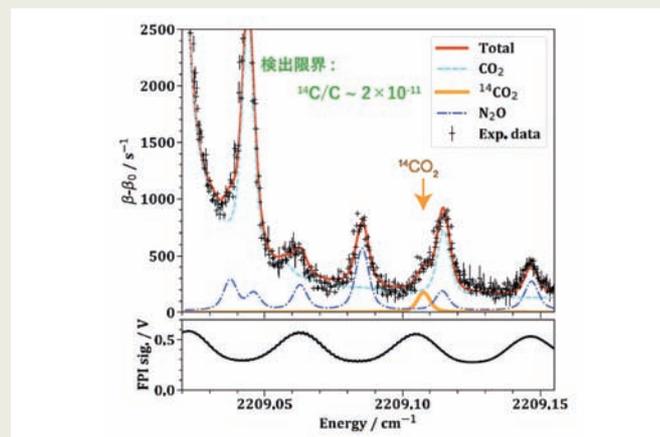
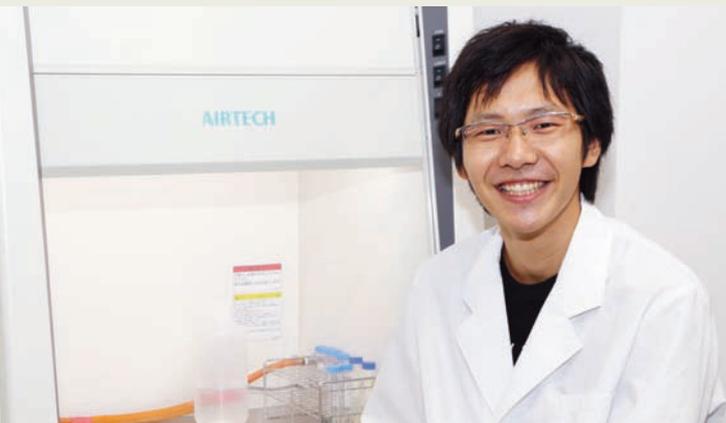


図2 取得された $^{14}\text{CO}_2$ スペクトルの例[1]。現状の検出感度は 2×10^{-11} 。今後さらなる感度向上により天然同位体比($\sim 10^{-12}$)の感度を目指す。



Kasai Yusuke

笠井 宥佑 かさい ゆうすけ

工学研究科 マイクロ・ナノ機械理工学専攻
博士後期課程2年

FILE
No.50

1993年生まれ

2017年3月 名古屋大学工学研究科 博士課程(前期課程)修了

2017年4月 名古屋大学工学研究科 博士課程(後期課程)進学

2018年4月 日本学術振興会 特別研究員(DC2)採用

オンチップ細胞分取技術～高い生存率で大きな細胞の高速分取を達成～

近年、膨大な細胞の中から目的の細胞を高速に分取する技術に注目が集まっています。細胞分取技術の応用例として、血液中の循環腫瘍細胞を検出・分取することによる癌の早期診断への応用や、ミドリムシなどの微細藻類の中から脂質を多く含む個体を分取することによるバイオ燃料の高効率産生への応用が期待されています。細胞分取技術の中でも、分取中のサンプル感染の問題が無く、顕微鏡システムとの統合が可能な利点から、マイクロ流体チップを用いたオンチップ細胞分取技術に大きな注目が集まっています。しかし、従来のオンチップ細胞分取技術において、対象とする細胞の大きさと分取速度の間にトレードオフが存在し、大きな細胞を高速に分取するということが困難とされてきました。

そこで本研究では、大きな細胞を高速に分取することを目的として、ガラス膜ポンプを有するオンチップ高速細胞分取装置を開発いたしました。ガラス膜ポンプは、ガラス-Si-ガラスの3層構造の高剛性マイクロ流体チップと、高速・精密駆動が可能な外部ピエゾアクチュエータによって構成されます。ガラス膜ポンプは細胞の流れ方向に直交するように向かい合って2つ設置されており、2つのポンプが同時に押し引きすることによって目的の細胞の流れを回収用流路へとシフトする仕組みになっています。本装置を用いて、ミドリムシとヒト由来の胃がん細胞を対象とした、2種類の分取実験を行いました。特にミドリムシは大きさが約100 μ mと大きく、従来の細胞分取技術では高速分取が困難な対象です。ビーズと細胞の懸濁液の中から細胞のみを分取する実験を行った結果、ミドリムシの分取実験では最大分取速度:23 kHz、成功率:92.8%、純度:95.8%、生存率:90.8%(分取前の生存率:91.7%)を達成し、胃がん細胞の実験では、最大分取速度:11 kHz、成功率:97.8%、純度:98.9%、生存率:90.7%(分取前の生存率:91.4%)を達成しました。以上の結果より、本技術を用いて、従来困難であった大きな細胞を高速かつ高い生存率で分取することに成功いたしました。

今後、細胞分取技術をさらに発展させることによって、細胞解析

の加速と、それによる医療・産業分野の発展に貢献することを目指します。

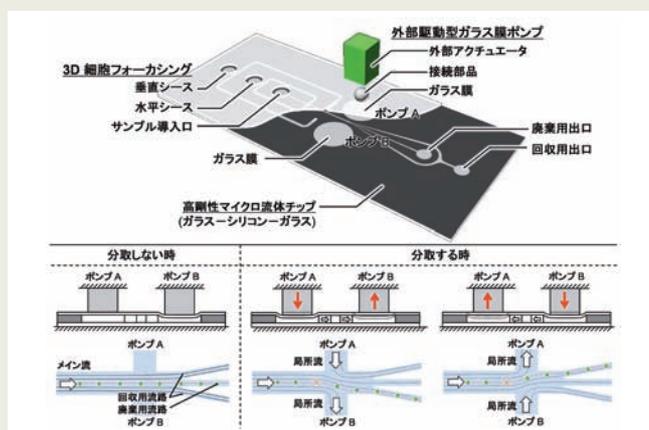


図1 オンチップ細胞分取装置の概念図



図2 マイクロ流体チップの構成図と写真

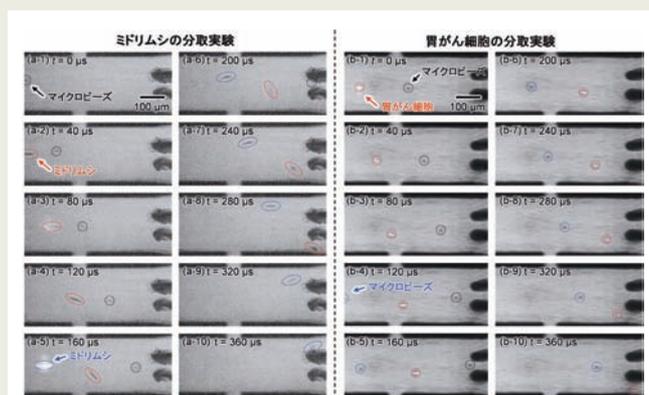
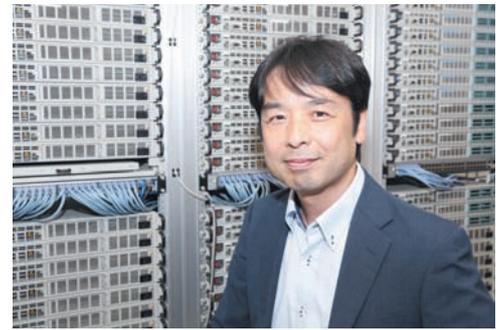


図3 細胞分取実験の連続写真。(a)ミドリムシの分取実験 (b)胃がん細胞の分取実験

結晶中の原子配列の乱れを科学する

物質科学専攻 教授
松永 克志

URL : <http://designmt.mp.pse.nagoya-u.ac.jp/hp/>



われわれの身の回りを取り巻く金属、半導体、セラミックス等の材料は、日常生活に利便さや快適さを与えてくれています。それらの材料の多くは、構成原子が規則的に配列した結晶性材料です。材料のもつ基本的な性質は、その規則的原子配列のもととなる基本構造（結晶構造）と構成原子の種類にもとづき大まかに理解できます。しかし、材料の端から端まで原子配列の規則性が保たれているわけではなく、どこかしら規則性の乱れた領域が存在します。これを結晶欠陥といいます。「欠陥」という語呂から悪いイメージが浮かぶかもしれませんが、結晶欠陥は微量たりとも必ず材料中に存在しており、その存在によって結晶構造からは予測できない材料特性が発現することもあります。私たちの研究グループは、無機化合物における結晶欠陥に着目し、それ由来する材料特性や材料現象を研究することで、結晶欠陥にひそむ新しい材料科学を発掘しようと日々研究に取り組んでいます。

一例として、光触媒で重要な貴金属担持酸化チタンに関する研究成果を図1に示します。触媒材料は有害なガス成分を効率的に無害化するため、環境材料として工業的に極めて重要です。金属酸化物表面に白金などの貴金属原子を

担持すると触媒材料特性が向上することが知られており、酸化物表面と貴金属原子との界面における相互作用が、触媒特性を決める重要な因子と考えられています。理論計算と電子顕微鏡観察による研究を行った結果、同じ貴金属原子であっても、金と白金とでは表面吸着サイトや吸着エネルギーが大きく異なり、その起源は、酸化チタン表面上の異なる種類の酸素空孔であることを突き止めました。これは、長年の表面科学研究の中でも、酸化チタン表面上の異なる種類の酸素空孔の存在を指摘した初めての研究成果であり、触媒材料科学や表面科学に一石を投じる結果です[1,2]。

また、図2は転位という結晶欠陥に関する最近の研究成果です。一般に、セラミックスや半導体として使われる無機化合物結晶は、室温付近で非常に脆く壊れやすいため、複雑な形状に加工することや、急激に大きな荷重がかかる部位に使用することが困難とされてきました。これに対し、今回の研究で用いた硫化亜鉛(ZnS)結晶は、通常の実験で用いられる光環境下で外力を加えると急激に破壊しますが、光のない環境(暗室)下では破壊せず大きく変形できることを見出しました[3]。従来から脆くて壊れやすいと考えら

れてきた結晶が、周囲を暗くするだけで非常に柔らかい性質をもつという、これまでの常識を覆す結果です。この原因を探るため、変形時の結晶内部の微細構造を観察したところ、暗室下での変形時には「転位」が結晶内に多数存在していました。転位は結晶の変形しやすさを決める線状の結晶欠陥です。金属材料が変形しやすく粘り強いのは、材料が外力を受けた時に、結晶内に転位が多数生成されかつ容易に移動できるためです。光のない環境では、これと同じ現象がZnS結晶にも起こっていることとなります。将来的には、この研究成果を光制御による材料加工技術へ応用することも期待できます。

近年の電子顕微鏡観察の高分解能化や理論計算の高精度化によって、結晶欠陥の素性を電子・原子レベルで解明することが可能となりました。材料には 10^{23} 個という天文学的な数の原子が含まれる中で、その一部の原子配列の乱れに秘められた新しい科学とその可能性は、今後さらに広がっていくものと期待できます。

[1] T.Y. Chang, Y. Tanaka, R. Ishikawa, K. Toyoura, K. Matsunaga, Y. Ikuhara, N. Shibata, Nano Lett. 14 (2014) 134-138.
[2] K. Matsunaga, Y. Tanaka, K. Toyoura, A. Nakamura, Y. Ikuhara, N. Shibata, Phys. Rev. B 90 (2014) 195303.
[3] Y. Oshima, A. Nakamura, K. Matsunaga, Science 360 (2018) 772-774.

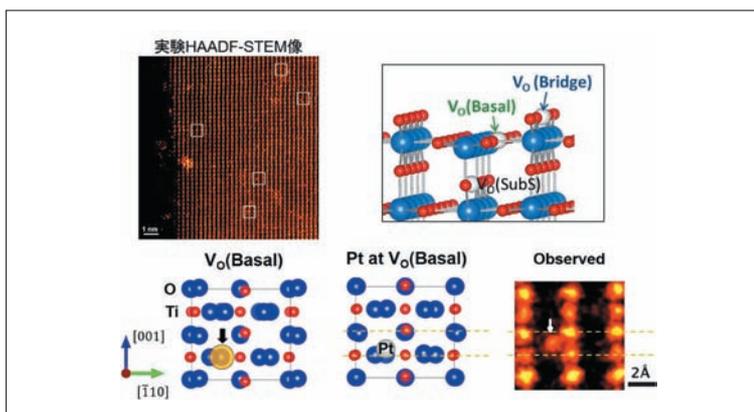


図1 酸化チタン表面上での白金原子吸着構造の電子顕微鏡観察およびDFT解析結果／同表面上の白金原子は、表面の非対称なサイトに吸着するという特徴的な挙動を示し、それはBasalサイトの酸素空孔の存在に起因することがわかった。一方、金原子はBridgeサイトでの酸素空孔に吸着する。

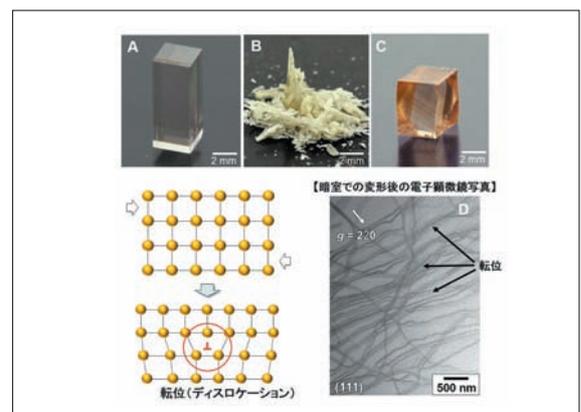
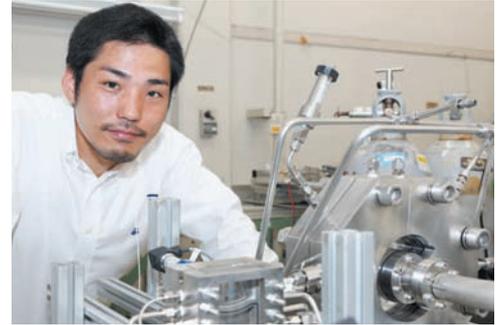


図2 硫化亜鉛結晶の示す暗室下での異常な塑性変形挙動／(A)変形前試料、(B)光環境下で急激に破壊した試料、(C)暗室下で大塑性変形した試料、(D)暗室下で変形した結晶の電子顕微鏡写真

爆轟波をより身近なものに、そして宇宙へ

航空宇宙工学専攻 講師
松岡 健

URL : <http://www.prop.nuae.nagoya-u.ac.jp/>
<http://www.prop.nuae.nagoya-u.ac.jp/member03.html>



爆轟波(ばくごうは)とは、燃料と酸化剤が予め混合された爆発性ガス中を秒速2000~3000メートルで伝播する最も激しい燃焼形態で、デトネーション波とも呼ばれています。例えば、1気圧27℃のエチレン-酸素量論混合気での断熱火炎温度が約2900℃なのに対して、爆轟波では約3200℃になります。この爆轟波を内燃機関の燃焼に用いれば、既存の発電・航空宇宙推進用エンジンの定圧・定積燃焼サイクルと比較して最も高い理論熱効率を実現できます。また、爆轟波は自らで爆発性ガスの圧縮(衝撃波断熱圧縮)を行うため、初期圧力に対して約5~10倍の高圧ガスを小型燃焼器で瞬時に生成することが可能です。高周波での衝撃波やジェット生成は、小型衛星の高精度姿勢制御など新たな価値の創造につながると考えています。このように、工学的潜在能力が高い爆轟波ですが、溶射装置など限られた分野での実用化に留まっているのが現状です。

我々は、この爆轟波を誰でも安全かつ容易に利用できる爆轟波生成技術の確立と新たな価値の創造を目指し、基礎研究、技術開発およびシステム開発に取り組んでいます。基礎研究では、レーザー点火技術を用いた爆轟波の生成手法に関する実験を実施しています。従来の自動車用スパークプラグによる火花点火では、爆発性ガスの着火から爆轟波に遷移するまでに有限の時間・距離が必要で、この過程を最短化することが重要です。レーザー点火はナノ秒オーダーの短い時間に多点の狭空間に高エネルギーを注入することが出来ます。現在、遷移過程短縮に対するレーザー点火の有効性を確かめる可視化実験を進めています。

技術開発では、爆轟波を安定して維持する手法の提案とその実証に取り組んでいます。筒状燃焼器中で爆轟波を間欠的に生成する手法では、既燃ガス掃気過程を排除した新しい手法を提案しました(図1a)。これまでに、従来手

法と比べて1桁高い2000回/秒の爆轟波生成速度を実証しており[1]、本技術の高度化によって超音波領域である20000回/秒程度の超高周波爆轟波生成も可能であると考えています。また、新たに扇形薄型燃焼器(図1b)の左右壁面で反射を繰り返す手法を提案しました。これまでに、実験的にその現象を確認しており[2](図1c)、複雑な現象の解明および各種性能評価に取り組んでいます。

システム実証では、主に宇宙推進機への応用を目指した研究を実施しています。間欠爆轟型では、2013年に垂直飛行試験を実施し、既存スラスタと同程度の推重比(推力/エンジン重量)が獲得できることを示しました[3]。また、ロケット機軸のロール制御用スラスタの開発(図2a)、真空下での作動実証[4]を行ってきました。近年では、新しい回転爆轟型ロケットシステムの滑走試験(図2b)、長秒時作動試験

(図2c)にも取り組んでいます。

以上の通り、推進エンジンをはじめ様々な分野での実用化を目指した、爆轟波生成手法に関する研究開発を行っています。今後も、爆轟波がより身近なものとして認知・利用してもらえるよう、基礎研究からシステム実証まで着実に実施していきたいと考えています。

[1] K. Matsuoka, H. Taki, J. Kasahara, H. Watanabe, A. Matsuo, and T. Endo, Pulse Detonation Cycle at Kilohertz Frequency, Detonation Control for Propulsion, Shock Wave and High Pressure Phenomena, Springer International Publishing, 2018, Chapter 8, pp. 183-198.
[2] M. Yamaguchi, K. Matsuoka, A. Kawasaki, J. Kasahara, H. Watanabe, A. Matsuo, Supersonic Combustion Induced by Reflective Shuttling Shock Wave in Fan-Shaped Two-Dimensional Combustor, Proceedings of the Combustion Institute.
[3] K. Matsuoka, T. Morozumi, S. Takagi, J. Kasahara, A. Matsuo, and I. Funaki, Flight Validation of a Rotary-Valved Four-Cylinder Pulse Detonation Rocket, Journal of Propulsion and Power, Vol. 32, No. 2, pp. 383-391, 2016.
[4] K. Matsuoka, S. Takagi, J. Kasahara, A. Matsuo, and I. Funaki, Validation of Pulse Detonation Operation in Low-Ambient-Pressure Environment, Journal of Propulsion and Power, Vol. 34, No. 1, pp. 116-124, 2018.

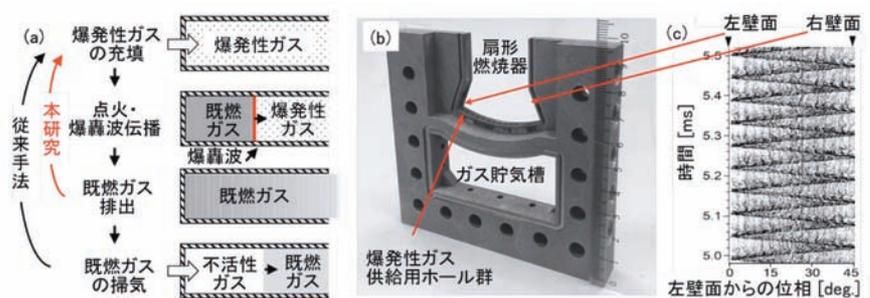


図1 (a) 提案した間欠爆轟波生成手法のサイクル図、(b) 3Dプリンタ造形した扇型燃焼器 (c) 扇型燃焼器内の位相-時間線図(黒色は自発光の強い領域の軌跡で、燃焼波が往復していることが確認できる)



図2 (a) 間欠爆轟型スラスタによるロール制御実験(上面から撮影)、(b) 回転爆轟型ロケットシステムの滑走試験、(c) 回転爆轟型ロケットエンジンの長秒時作動試験

学科	学生				
	1年	2年	3年	4年	合計
化学生命工学科	102(1)	103(1)	-	-	205(2)
物理工学科	85(2)	87(3)	-	-	172(5)
マテリアル工学科	113(1)	107(0)	-	-	220(1)
電気電子情報工学科	125(4)	119(2)	-	-	244(6)
機械・航空宇宙工学科	156(3)	155(1)	-	-	311(4)
エネルギー理工工学科	44(1)	38(0)	-	-	82(1)
環境土木・建築工学科	81(1)	80(1)	-	-	161(2)
化学・生物工学科	3(0)	10(1)	156(2)	195(12)	364(15)
物理工学科	1(0)	21(1)	189(4)	229(8)	440(13)
電気電子・情報工学科	3(0)	20(5)	182(7)	214(9)	419(21)
機械・航空工学科	-	9(1)	178(10)	201(15)	388(26)
環境土木・建築工学科	2(0)	11(0)	79(2)	88(3)	180(5)
合計	715(13)	760(16)	784(25)	927(47)	3186(101)

(注) ()内は外国人留学生を内数で示す。

専攻	学生					
	前期課程		後期課程			合計
	1年	2年	1年	2年	3年	
有機・高分子化学専攻	37(3)	42(1)	14(0)	8(0)	-	101(4)
応用物質化学専攻	35(1)	34(1)	2(0)	3(1)	-	74(3)
生命分子化学専攻	30(1)	30(1)	7(1)	-	-	74(4)
応用物理学専攻	37(0)	38(1)	4(1)	2(0)	-	81(2)
物質科学専攻	39(3)	37(0)	2(0)	3(2)	-	81(5)
材料デザイン工学専攻	36(0)	37(0)	4(1)	-	-	77(1)
物質プロセス工学専攻	44(6)	44(5)	8(3)	3(0)	-	99(14)
化学システム工学専攻	39(4)	39(2)	5(2)	1(1)	-	84(9)
電気工学専攻	42(5)	33(2)	12(3)	5(2)	-	92(12)
電子工学専攻	57(9)	56(9)	17(3)	5(3)	-	135(24)
情報・通信工学専攻	37(2)	44(6)	7(1)	5(0)	-	93(9)
機械システム工学専攻	82(11)	52(8)	10(3)	5(3)	-	149(25)
マイクロ・ナノ機械理工学専攻	42(3)	42(3)	3(2)	6(3)	-	93(11)
航空宇宙工学専攻	45(6)	44(2)	12(6)	4(2)	-	105(16)
エネルギー理工学専攻	18(1)	23(2)	2(1)	3(1)	-	46(5)
総合エネルギー工学専攻	18(0)	20(0)	2(0)	5(0)	-	45(0)
土木工学専攻	46(14)	32(3)	9(8)	2(1)	-	89(26)
化学・生物工学専攻	-	5(2)	-	2(0)	14(2)	21(4)
マテリアル理工学専攻	-	3(1)	-	3(1)	19(8)	25(10)
電子情報システム専攻	-	8(5)	-	5(0)	27(9)	40(14)
機械理工学専攻	-	9(3)	-	5(3)	25(10)	39(16)
航空宇宙工学専攻	-	2(0)	-	-	4(2)	6(2)
社会基盤工学専攻	-	9(9)	-	11(11)	10(5)	30(25)
結晶材料工学専攻	-	2(1)	-	1(0)	3(0)	6(1)
エネルギー理工学専攻	-	2(0)	-	-	2(1)	4(1)
量子工学専攻	-	-	-	-	-	-
マイクロ・ナノシステム工学専攻	-	1(0)	-	1(0)	13(6)	15(6)
物質制御工学専攻	-	-	-	-	7(1)	7(1)
計算理工学専攻	-	1(0)	-	-	9(3)	10(3)
合計	684(69)	689(67)	120(35)	95(35)	133(47)	1721(253)

(注) ()内は外国人留学生を内数で示す。

地域	国名	学部			大学院			合計	国費	政府	私費
		学生	研究生等	前期課程	後期課程	研究生等					
東アジア Eastern Asia	大韓民国	39	1	11	17	0	68	14	16	38	
	台湾	2	2	2	0	2	8	-	-	8	
	中華人民共和国	13	23	98	55	5	194	6	-	188	
	モンゴル	1	0	1	0	0	2	2	-	-	
	インドネシア	9	1	3	4	0	17	6	-	11	
東南アジア South-Eastern Asia	シンガポール	1	0	0	0	0	1	1	-	-	
	タイ	1	0	2	5	1	9	3	1	5	
	フィリピン	0	0	0	1	1	2	1	-	1	
	ベトナム	8	0	2	8	0	18	10	-	8	
	マレーシア	6	0	1	5	0	12	4	1	7	
	ミャンマー	0	0	0	1	0	1	1	-	-	
	インド	9	2	1	5	0	17	9	-	8	
南アジア Southern Asia	スリランカ	5	0	0	0	0	5	1	-	4	
	パキスタン	0	0	2	2	0	4	4	-	-	
	バングラデシュ	0	0	0	2	0	2	1	-	1	
	アフガニスタン	0	0	3	0	0	3	-	-	3	
西アジア Western Asia	シリア	0	0	0	1	0	1	-	-	1	
	トルコ	0	1	0	1	0	2	-	-	2	
	ウズベキスタン	1	0	2	0	0	3	2	-	1	
ロシア・NIS諸国 Russian・NIS	カザフスタン	1	0	0	0	0	1	-	-	1	
	エジプト	1	0	1	4	0	6	1	-	5	
	オマーン	0	0	1	0	0	1	-	-	1	
	ギニア	0	0	0	1	0	1	-	-	1	
	ケニア	0	0	0	1	0	1	1	-	-	
	ザンビア	1	0	0	0	0	1	-	-	1	
	セネガル	0	0	1	0	0	1	-	-	1	
アフリカ Africa	タンザニア	0	0	1	0	0	1	1	-	-	
	ナイジェリア	0	0	1	0	0	1	1	-	1	
	ベナン	0	0	0	1	0	1	1	-	-	
	モロッコ	0	1	1	0	0	2	1	-	1	
	デンマーク	0	0	0	0	1	1	-	-	1	
	ドイツ	0	0	0	0	3	3	-	-	3	
	ヨーロッパ Europe	ハンガリー	1	0	0	0	0	1	-	-	1
フランス		0	0	0	0	2	2	-	-	2	
ポーランド		0	0	0	0	1	1	-	-	1	
アメリカ		1	1	1	0	0	3	1	-	2	
北米 Northern America	カナダ	1	1	0	0	0	2	1	-	1	
	エクアドル	0	0	0	1	0	1	-	-	1	
中南米 Central and South America	ブラジル	0	1	0	0	0	1	1	-	-	
	ペルー	0	0	0	1	0	1	1	-	-	
	メキシコ	0	2	1	1	0	4	-	-	4	
合計		101	36	136	117	16	406	74	18	314	

	学部	大学院	合計
国費留学生	32	42	74
外国政府派遣留学生	17	1	18
私費留学生	88	226	314

地域	人数	%
東アジア	272	67.0%
東南アジア	60	14.8%
南アジア	28	6.9%
西アジア	6	1.5%
ロシア・NIS諸国	4	1.0%
アフリカ	16	3.9%
ヨーロッパ	8	2.0%
オセアニア	0	0.0%
北米	5	1.2%
中南米	7	1.7%
合計	406	100.0%

平成29年度 工学部卒業生・工学研究科修士の進路		
I系		
学部/大学院	コース・専攻	学部卒業生、博士課程前期修士の主な就職先
学部	応用化学コース	藤野工業株式会社、株式会社野村総合研究所、名古屋大学、株式会社日本ウィルテックソリューション
大学院	化学・生物工学専攻 応用化学分野	アイシン化工株式会社、アイシン精機株式会社、愛知製鋼株式会社、旭化成株式会社、味の素冷凍食品株式会社、イビデン株式会社、花王株式会社、株式会社LIXIL、株式会社クラレ、株式会社ジェイテクト、株式会社島津製作所、株式会社タカギ、株式会社ミルボン、株式会社カネカ、株式会社デンソー、関西ペイント株式会社、中部電力株式会社、東ソー株式会社、東洋ゴム工業株式会社、東洋紡株式会社、東レ株式会社、日本ガイシ株式会社、日本特殊陶業株式会社、日本メナード化粧品株式会社、長谷川香料株式会社、浜松トニクス、富士ゼロックス株式会社、古河電気工業株式会社、雪印メグミルク株式会社、横浜ゴム株式会社
学部	分子化学工学コース	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、株式会社豊田自動織機、三機工業株式会社、住友商事株式会社、双日株式会社、東京ウエルズ株式会社、東洋エンジニアリング株式会社、日本ユニシス株式会社
大学院	化学・生物工学専攻 分子化学工学分野	JFEスチール株式会社、P&Gジャパン株式会社、旭化成株式会社、オルガノ株式会社、株式会社アドヴィックス、株式会社神戸製鋼所、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、株式会社日本触媒、キリン株式会社、栗田工業株式会社、小牧市役所、サッポロビール株式会社、信越化学工業株式会社、住友化学株式会社、住友重機械工業株式会社、竹本油脂株式会社、中部電力株式会社、東ソー株式会社、東邦ガス株式会社、東レ株式会社、トヨタ自動車株式会社、トヨタ紡織株式会社、豊橋市役所、日産自動車株式会社、日本ガイシ株式会社、ファイザー株式会社、三井化学株式会社、三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社、三菱日立パワーシステムズ株式会社、モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社、横浜ゴム株式会社
学部	生物機能工学コース	名古屋製酪株式会社
大学院	化学・生物工学専攻 生物機能工学分野	MCフードスペシャリティーズ株式会社、パーソルキャリア株式会社、みずほ証券、旭化成株式会社、株式会社 キャタラー、株式会社NTTデータMSE、信越化学工業株式会社、東レ株式会社、東和薬品株式会社、日本製粉株式会社、農林水産省 植物防疫所
II系		
学部/大学院	コース・専攻	学部卒業生、博士課程前期修士の主な就職先
学部	材料工学コース	MMCリョウテック株式会社、アイシン機工株式会社、アクセンチュア株式会社、いすゞ自動車株式会社、株式会社あしたのチーム、株式会社アドヴィックス、株式会社オービック、佐知屋合同会社、シロキ工業株式会社、新東工業株式会社、トヨタ自動車株式会社
大学院	マテリアル理工学専攻 材料工学分野	DMG森精機株式会社、愛三工業株式会社、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、アイシン精機株式会社、愛知製鋼株式会社、株式会社LIXIL、株式会社神戸製鋼所、株式会社ジェイテクト、株式会社豊田自動織機、株式会社ニデック、株式会社ノリタケカンパニーリミテド、株式会社日立製作所、株式会社ヨシタケ、川崎重工株式会社、サンディスク株式会社、セイコーエプソン株式会社、ソニーグループ/バルムニューファクチャリング & オペレーション株式会社、大同特殊鋼株式会社、中部電力株式会社、トヨタ自動車株式会社、豊田通商株式会社、名古屋鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、日揮株式会社、日産自動車株式会社、日本ガイシ株式会社、日立金属株式会社、ファナック株式会社、ブラザー工業株式会社、本田技研工業株式会社、三菱自動車工業株式会社、三菱重工株式会社、三菱電機株式会社、三菱日立パワーシステムズ株式会社、リンナイ株式会社、ルネサスエレクトロニクス株式会社、株式会社IHJ、株式会社SOWA、株式会社アイヴィス、株式会社アドヴィックス、株式会社デンソー、新日鐵住金株式会社
学部	応用物理学コース	岡崎商職員、楽天株式会社、株式会社ビッカカメラ、株式会社金沢村田製作所、東日本旅客鉄道株式会社
大学院	マテリアル理工学専攻 応用物理学分野	株式会社デンソー、株式会社日立製作所、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社村田製作所、静岡県職員、中部電力株式会社、東レ株式会社、トヨタ自動車株式会社、日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、林テンプ株式会社、ファナック株式会社、ブラザー工業株式会社、本田技研工業株式会社、三菱電機株式会社
学部	量子エネルギー工学コース	アイシン・コムクルーズ株式会社、株式会社シンカ、株式会社ワークスアプリケーションズ、ドレンシー株式会社、ミズノテクニクス株式会社、明治安田生命保険相互会社
大学院	マテリアル理工学専攻 量子エネルギー工学分野	株式会社モリテックス、イビデン株式会社、株式会社イククス工業、株式会社高津製作所、株式会社テブコシステムズ、株式会社デンソー、株式会社日立製作所、株式会社プリヂストン、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社村田製作所、関西電力株式会社、京セラ株式会社、公益社団法人日本アイソトープ協会、静岡県職員、セイコーエプソン株式会社、中部電力株式会社、デンソーテクノ株式会社、東レ株式会社、トヨタ自動車株式会社、トヨタ車体株式会社、西日本電信電話株式会社、日本電気株式会社、日本電信電話株式会社、日本特殊陶業株式会社、日本ビュアテック株式会社、パナソニック株式会社、林テンプ株式会社、ファナック株式会社、ブラザー工業株式会社、本田技研工業株式会社、三井物産株式会社、三菱重工株式会社、三菱電機株式会社、株式会社東海理化電機製作所
III系		
学部/大学院	コース・専攻	学部卒業生、博士課程前期修士の主な就職先
学部	電気電子工学コース	UDトラックス株式会社、株式会社DUO、株式会社NTTデータMSE、株式会社栄光、日本鉄道電気設計株式会社、フタバ株式会社、北陸電力株式会社、株式会社ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング、三菱電機メカトロニクスソフトウェア株式会社
大学院	電子情報システム専攻 電気工学分野	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、アイシン精機株式会社、オークマ株式会社、トヨタ自動車株式会社、ブラザー工業株式会社、横河電機株式会社、株式会社タイテック、株式会社メイテック、株式会社村田製作所、株式会社豊田自動織機、株式会社明電舎、三菱電機株式会社、新日鐵住金ソリューションズ株式会社、中部電力株式会社、日産自動車株式会社、浜松トニクス株式会社、富士電機株式会社、名古屋職員(技術職)
大学院	電子情報システム専攻 電子工学分野	J F Eエンジニアリング株式会社、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、イビデン株式会社、オークマ株式会社、株式会社メイデー、キリン株式会社、トヨタ自動車株式会社、パナソニックエレクトロニクス株式会社、ブラザー工業株式会社、株式会社デンソー、株式会社マキタ、株式会社豊田自動織機、株式会社野村総合研究所、帰国(トヨタ自動車開発センター(中国)株式会社)、三菱重工株式会社、三菱商事株式会社、三菱電機株式会社、住友電気工業株式会社、中部電力株式会社、東芝メモリ株式会社、日産自動車株式会社、日本ガイシ株式会社、日本特殊陶業株式会社、名古屋職員(技術職)
大学院	電子情報システム専攻 情報・通信工学分野	N T Tコミュニケーションズ株式会社、S k y株式会社、ソニーL S Iデザイン株式会社、ソニー株式会社、デンソーテクノ株式会社、トヨタ自動車株式会社、ブラザー工業株式会社、株式会社N T Tドコモ、株式会社U A C J、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、株式会社キーエンス、株式会社デンソーグリーイト、株式会社豊田自動織機、三菱電機株式会社、西日本電信電話株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、東海旅客鉄道株式会社
学部	情報工学コース	株式会社NTTドコモ、クックパッド株式会社、厚生労働省(労働基準監督官)、スズキ株式会社、名古屋税関(一般職)、日本ユニシス株式会社
IV系		
学部/大学院	コース・専攻	学部卒業生、博士課程前期修士の主な就職先
学部	機械システム工学コース	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、井上特殊鋼株式会社、愛媛県庁、オークマ株式会社、株式会社オービック、株式会社電通、グレイステクノロジー株式会社、東京地下鉄株式会社、トヨタ車体株式会社、トヨタ自動車株式会社、長瀬産業株式会社、パーソルR&D株式会社、三菱重工株式会社、三菱電機株式会社、三菱ふそうトラック・バス株式会社、ヤマウチ株式会社、高砂電気工業株式会社
大学院	機械理工学専攻 機械科学分野	FWRREYROS S.A.(Peru)、JFEエンジニアリング株式会社、アイシン精機株式会社、旭化成グループ、旭硝子株式会社、オリバス株式会社、株式会社IHJ、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、川崎重工株式会社、関西電力株式会社、キャノン株式会社、公益財団法人鉄道総合技術研究所、昭和シェル石油株式会社、新日鐵住金株式会社、全日本空輸株式会社、東海旅客鉄道株式会社、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、日本特殊陶業株式会社、三菱電機株式会社、三菱日立パワーシステムズ株式会社、ヤマハ発動機株式会社、中部国際空港株式会社、中部電力株式会社
大学院	機械理工学専攻 機械情報システム工学分野	オリバス株式会社、株式会社小松製作所、株式会社島津製作所、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、株式会社日立製作所、トヨタ自動車株式会社、トヨタ自動車研究開発センター(中国)有限公司(China)、西日本旅客鉄道株式会社、日産自動車株式会社、富士通株式会社、ブラザー工業株式会社、ポッシュ株式会社
学部	電子機械工学コース	日本テラパック株式会社、株式会社東海理化電機製作所、国土交通省大阪航空局、ナブテスコ株式会社、日本アイ・ピー・エム株式会社、東日本電信電話株式会社、フューチャー・キーテック株式会社、三菱電機エンジニアリング株式会社
大学院	機械理工学専攻 電子機械工学分野	Goertek Shinsei Technology 株式会社、アイシン精機株式会社、オリバス株式会社、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、株式会社日立製作所、株式会社安川電機、サントリーホールディングス株式会社、新日鐵住金株式会社、トヨタ自動車株式会社、日揮株式会社、日本車輛製造株式会社、本田技研工業株式会社、三菱電機株式会社、三菱電機メカトロニクスソフトウェア株式会社
学部	航空宇宙工学コース	エム株式会社、株式会社ジェイテクト
大学院	航空宇宙工学専攻	JFEエンジニアリング株式会社、アクセンチュア株式会社、いすゞ自動車株式会社、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、株式会社IHJ、株式会社シマノ、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、株式会社日立製作所、株式会社プリヂストン、川崎重工株式会社、全日本空輸株式会社、ソフトバンク株式会社、トヨタ自動車株式会社、本田技研工業株式会社、三菱重工株式会社、西日本旅客鉄道株式会社

平成29年度 工学部卒業生・工学研究科修士の進路		
V系		
学部/大学院	コース・専攻	
学部	社会資本工学コース 環境土木工学コース	愛知県職員、日本たばこ産業株式会社、中日本高速道路株式会社
大学院	社会基盤工学専攻	Bahir Dar University (エチオピア)、JFEエンジニアリング株式会社、Ministry of Energy and Water (アフガニスタン)、鹿島建設株式会社、株式会社大林組、株式会社デンソー、シンプレクス株式会社、中部電力株式会社、電源開発株式会社、東邦ガス株式会社、中日本高速道路株式会社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、一般財団法人電力中央研究所、株式会社安藤・間、株式会社横河ブリッジ、株式会社建設技術研究所、株式会社神鋼環境ソリューション、西日本電信電話株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、大成建設株式会社、瀬上工業株式会社、東海旅客鉄道株式会社、東日本高速道路株式会社
学部	建築学コース	愛知県庁、株式会社スカイ、株式会社バレッツ、清水建設株式会社、中部国際空港株式会社、トヨタホーム株式会社、三井不動産株式会社、楽天株式会社
VI系		
学部/大学院	コース・専攻	学部卒業生、博士課程前期修了生の主な就職先
	結晶材料工学専攻	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、アスモ株式会社、イビデン株式会社、株式会社LIXIL、株式会社アドヴィックス、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、株式会社村田製作所、株式会社リコー、新日鐵住金株式会社、シンフォニアテクノロジー株式会社、ダイキン工業株式会社、中部電力株式会社、東京エレクトロンFE株式会社、東邦ガス株式会社、トヨタ自動車株式会社、トヨタ車体株式会社、日亜化学工業株式会社、日産自動車株式会社、日本特殊陶業株式会社、パナソニックエコシステムズ株式会社、パナソニック株式会社、浜松ホトニクス株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、ブラザー工業株式会社、三菱電機株式会社、三菱電機株式会社先端技術総合研究所、三菱マテリアル株式会社、ヤマザキマザック株式会社
	エネルギー理工学専攻	オークマ株式会社、株式会社すこい会議どすえ、株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社、株式会社デンソー、株式会社村田製作所、株式会社ワークスアプリケーションズ、シスコシステムズ合同会社、新日鐵住金エンジニアリング株式会社、住友重機械工業株式会社、中部電力株式会社、東芝キヤリア株式会社、トヨタ自動車株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、日本特殊陶業株式会社、パナソニック株式会社、ファナック株式会社、富士通株式会社、三菱重工業株式会社、三菱電機株式会社
大学院	量子工学専攻	JXTGエネルギー株式会社、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、アイシン精機株式会社、アスモ株式会社、株式会社東海エンジニアリングサービス、株式会社東海理化電機製作所、株式会社日立製作所、株式会社リンクアンドモチベーション、シンフォニアテクノロジー株式会社、ソニー株式会社、ダイキンHVACソリューション東海株式会社、東芝デベロップメントエンジニアリング株式会社、トヨタ車体株式会社、トヨタ自動車株式会社、パナソニック株式会社、浜松ホトニクス株式会社、ブラザー工業株式会社、三菱自動車工業株式会社、三菱重工業株式会社、株式会社デンソー、株式会社ニテック、株式会社小松製作所、三菱電機株式会社、住友電気工業株式会社、東レ株式会社、東京地下鉄株式会社、日本ガイシ株式会社、日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社
	マイクロ・ナノシステム工学専攻	Huawei Technologies Co.,Ltd.、NECソリューションイノベータ株式会社、アイシン精機株式会社、愛知県庁、愛知製鋼株式会社、アビームコンサルティング株式会社、オリンパス株式会社、株式会社ジェイテクト、株式会社デンソー、株式会社豊田自動織機、株式会社ニトリ、株式会社日立製作所、株式会社牧野フライス製作所、川崎重工業株式会社、新日鐵住金株式会社、ダイキン工業株式会社、トヨタ自動車株式会社、トヨタ紡織株式会社、ナブテスコ株式会社、日本車輻製造株式会社、ブラザー工業株式会社、三井化学株式会社、三菱重工業株式会社、村田機械株式会社
	物質制御工学専攻	BASFジャパン株式会社、JFEスチール株式会社、愛知製鋼株式会社、旭硝子株式会社、エムケー精工株式会社、花王株式会社、株式会社ADEKA、株式会社LIXIL、株式会社UACJ、株式会社小糸製作所、株式会社神戸製鋼所、株式会社島津製作所、株式会社テクノプロ、株式会社デンソー、株式会社ミルボン、四国電力株式会社、スズキ株式会社、積水化学工業株式会社、大同特殊鋼株式会社、大日本印刷株式会社、東洋紡株式会社、豊田合成株式会社、トヨタ紡織株式会社、日揮株式会社、日本ガイシ株式会社、古河電気工業株式会社、三井化学株式会社、ミトコム株式会社、ヤマハ株式会社
	計算理工学専攻	DMG森精機株式会社、KDDI株式会社、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、愛知県庁、伊藤忠商事株式会社、株式会社シマノ、株式会社デンソー、株式会社電通、株式会社トヨタコミュニケーションシステム、株式会社日立製作所、株式会社明治、川崎重工業株式会社、関西電力株式会社、ジャパシシステム株式会社、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、日本アイ・ピー・エム株式会社、パナソニック株式会社 エコソリューションズ社、ヤフー株式会社、千代田化工建設株式会社

教員 賞一覧							(平成30年度前期)
受賞年月日	賞名等	所属	職名	氏名	連名者	所属・職名・氏名	
平成30年4月20日	Journal of the Physical Society of Japan 2017 Highly Cited Article	応用物理学専攻	元:特任助教	山影 相	田中由喜夫 教授 岡本佳比古 准教授	応用物理学専攻 応用物理学専攻、外1名	
平成30年4月20日	Journal of the Physical Society of Japan 2017 Highly Cited Article	応用物理学専攻	准教授	岡本佳比古	井ノ原拓実 (平成29年3月 工学研究科博士課程前期課程修了) 山影相 元特任助教 竹中康司 教授	応用物理学専攻 応用物理学専攻	
平成30年5月15日	東海化学工業会賞	有機・高分子化学専攻	助教	原 光生			
平成30年5月22日	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第37回研究会 優秀研究賞	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	特任准教授	益田 泰輔			
平成30年5月24日	平成29年度高分子研究奨励賞	有機・高分子化学専攻	助教	原 光生			
平成30年5月30日	日本顕微鏡学会第19回奨励賞	応用物理学専攻 (未来材料・システム研究所)	准教授	栗原 真人			
平成30年5月31日	第74回 電気学術振興賞 論文賞	電気工学専攻	教授	早川 直樹	小島寛樹 准教授	電気工学専攻、外2名	
平成30年5月31日	第74回 電気学術振興賞 論文賞	電気工学専攻	准教授	小島 寛樹	早川直樹 教授	電気工学専攻、外2名	
平成30年6月7日	第4回末松安晴賞	電子工学専攻	准教授	新津 葵一			
平成30年6月21日	2018 Plasma Medicine Award	未来社会創造機構	教授	堀 勝			
平成30年6月30日	安藤博記念学術奨励賞	生命分子工学専攻	准教授	安井 隆雄			
平成30年7月12日	第39回日本炎症・再生医学会 優秀演題賞	先端ナノバイオデバイス 研究センター	特任准教授	湯川 博	馬場嘉信 教授	生命分子工学専攻	
平成30年7月31日	平成29年度日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員(書面担当)表彰	マイクロ・ナノ機械理工学	教授	秦 誠一			
平成30年7月31日	平成29年度日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員(書面担当)表彰	土木工学専攻	教授	中村 光			
平成30年7月31日	平成29年度日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員(書面担当)表彰	電気工学専攻	教授	大野 哲靖			
平成30年9月5日	日本液晶学会論文賞(A部門)	有機・高分子化学専攻	教授	関 隆広	原光生 助教	有機・高分子化学専攻	
平成30年9月13日	2018年度計測自動制御学会 学会賞(教育貢献賞)	航空宇宙工学専攻	教授	原 進			
平成30年10月1日	自動車技術会2018年春季大会学術講演会 優秀講演発表賞	機械システム工学専攻	教授	水野 幸治			
平成30年10月2日	Japanese Society for Engineering Education (JSEE 2018 Annual Conference) International Session Award	工学研究科・国際交流室	講師	LELEITO Emanuel			

学生 賞一覧						(平成30年度前期 一部平成29年度後期)	
受賞年月日	賞名等	所属	職名	氏名	連名者 所属・職名・氏名		
平成30年3月15日	電気学会優秀論文発表賞	電子情報システム専攻	元:M2	村北 慶輔			
平成30年3月15日	平成29年度衝撃波シンポジウム Best Presentation Award	航空宇宙工学専攻	M1	東 純一			
平成30年3月19日	情報処理学会第116回数理モデル化と問題解決研究会 ベストプレゼンテーション賞	計算理工学専攻	元:M2	西納 修一	吉川大弘 古橋武	准教授 情報・通信工学専攻 教授 情報・通信工学専攻	
平成30年3月22日	電子情報通信学会 学術奨励賞	情報・通信工学専攻	M2	小松 凜治			
平成30年3月26日	電子情報通信学会画像工学研究会 IE特別賞	電子情報システム専攻	元:M2	八木 祐亮	高橋桂太 藤井俊彰	准教授 情報・通信工学専攻 教授 情報・通信工学専攻、外2名	
平成30年3月26日	日本化学会東海支部長賞	物質制御工学専攻	M2	永井 美帆			
平成30年5月10日	平成29年度土木学会中部支部優秀研究発表賞	社会基盤工学専攻	元:M2	上山 裕太			
平成30年5月12日	シンポジウム モレキュラー・キラリティー2018 優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	D2	宇留嶋彬央			
平成30年5月12日	第22回液晶化学研究会シンポジウム ポスター賞	有機・高分子化学専攻	D1	北村 一晟	原光生 永野修作 関隆広	助教 有機・高分子化学専攻 准教授 V B L 教授 有機・高分子化学専攻	
平成30年5月21日	第64回構造工学シンポジウム論文賞	社会基盤工学専攻	D3	清川 昇悟	館石和雄 判治剛 清水優 中山裕也	教授 土木工学専攻 准教授 土木工学専攻 助教 土木工学専攻 M2 土木工学専攻	
平成30年5月22日	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第37回研究会 優秀発表賞	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	D2	笠井 宥佑			
平成30年5月22日	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第37回研究会 優秀発表賞	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	M2	公文 広樹			
平成30年5月25日	第67回高分子学会年次大会 高分子学会優秀ポスター賞	応用物質化学専攻	M1	孫 志紅			
平成30年5月25日	第67回高分子学会年次大会 高分子学会優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	M1	堀田 真央			
平成30年5月25日	第67回高分子学会年次大会 高分子学会優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	M1	山本 敦士			
平成30年5月25日	第67回高分子学会年次大会 高分子学会優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	D1	梶田 貴都			
平成30年5月25日	第67回高分子学会年次大会 高分子学会優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	M2	權 度宇	城地悠仁 竹岡敬和 関隆広 佐藤浩太郎 上垣外正己	元M2 物質制御工学専攻(H29.3.31修了) 准教授 有機・高分子化学専攻 教授 有機・高分子化学専攻 准教授 有機・高分子化学専攻 教授 有機・高分子化学専攻	
平成30年5月25日	第67回高分子学会年次大会 高分子学会優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	M1	三輪 英二	渡邊健太 竹岡敬和 関隆広	元M2 物質制御工学専攻(H30.3.31修了) 准教授 有機・高分子化学専攻 教授 有機・高分子化学専攻、外1名	
平成30年5月25日	第67回高分子学会年次大会 高分子学会優秀ポスター賞	生命分子工学専攻	D1	山野 雄平	村山恵司 浅沼浩之	助教 生命分子工学専攻 教授 生命分子工学専攻	
平成30年5月26日	平成30年度分離技術学会年会学生賞	物質プロセス工学専攻	M2	児玉 智彦	Wahyudiono 神田英輝 後藤元信	研究員 物質プロセス工学専攻 助教 物質プロセス工学専攻 教授 物質プロセス工学専攻、外1名	
平成30年5月30日	The Institute of Image Information and Television Engineers Niwa & Takayanagi Award, Excellent Paper Award,	電子情報システム専攻	元:M2	小林 優斗	高橋桂太 藤井俊彰	准教授 情報・通信工学専攻 教授 情報・通信工学専攻、外1名	
平成30年5月30日	日本顕微鏡学会第74回学術講演会 学生優秀ポスター賞	物質科学専攻	M2	山田 泰希	大塚真弘 武藤俊介	助教 物質科学専攻 教授 未来材料・システム研究所、外2名	
平成30年5月31日	1st Joint Conference ICSI / ISTDM 2018 Best Student Paper Award	物質科学専攻	D2	JEON Jihee			
平成30年6月1日	電子情報通信学会 画像工学研究会 IE賞	情報・通信工学専攻	M2	小松 凜治	高橋桂太 藤井俊彰	准教授 情報・通信工学専攻 教授 情報・通信工学専攻	
平成30年6月4日	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	D2	笠井 宥佑			
平成30年6月4日	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	マイクロ・ナノ機械理工学専攻	M2	公文 広樹			
平成30年6月7日	第113回有機合成シンポジウム 優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	M2	西村 和揮			
平成30年6月8日	第9回触媒科学研究発表会 優秀ポスター発表賞	応用物質化学専攻	D1	村田 和優	馬原優治 大山順也 山本悠太 荒井重勇 薩摩篤	物質制御工学(博士課程後期課程 平成30年3月31日修了) 助教 応用物質化学専攻 技術職員 未来材料・システム研究所 特任准教授 未来材料・システム研究所 教授 応用物質化学専攻	
平成30年6月8日	第9回触媒科学研究発表会 優秀ポスター発表賞	応用物質化学専攻	M2	大久保慶一	大山順也 薩摩篤	助教 応用物質化学専攻 教授 応用物質化学専攻	
平成30年6月14日	第111回GSC Student Travel Grant Award	有機・高分子化学専攻	D1	西田 竹徳			
平成30年6月18日	平成29年度 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞(修士)	情報・通信工学専攻	M2	橋本 涼太			

受賞年月日	賞名等	所属	職名	氏名	連名者 所属・職名・氏名
平成30年6月18日	平成29年度 電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞(修士)	情報・通信工学専攻	M2	茅野 敬介	
平成30年6月18日	第12回 ARG Webインテリジェンスとインタラクション研究会 学生奨励賞	情報・通信工学専攻	M1	内田 脩斗	吉川大弘 准教授 情報・通信工学専攻 古橋武 教授 情報・通信工学専攻と連名
平成30年6月20日	Fukushima Research Conference on Development of Analytical Techniques in Waste Management (FRCWM2018) Excellent Poster Award	エネルギー理工学専攻	D2	寺林 稜平	
平成30年6月20日	Polymer Networks and Gels 2018 Best Poster Award	有機・高分子化学専攻	M2	権 度宇	城地悠仁 元M2 物質制御工学専攻(H29.3.31修了) 竹岡敬和 准教授 有機・高分子化学専攻 関隆広 教授 有機・高分子化学専攻
平成30年6月22日	画像電子学会 画像電子技術賞	電子情報システム専攻	元:M2	大岡 知樹	高橋桂太 准教授 情報・通信工学専攻 藤井俊彰 教授 情報・通信工学専攻、外2名
平成30年6月22日	第34回日本D D S 学会学術集会 優秀発表賞	生命分子工学専攻	M2	北村 晃大	
平成30年6月27日	The 7th Hsinchu Summer Course and Workshop on "Emergent Functional Matter Science" Best Poster Award	応用物質化学専攻	M2	山内 弘樹	
平成30年6月28日	The 24th International Conference on Electrical Engineering 2018 (ICEE 2018) Best Oral Presentation Award	航空宇宙工学専攻	元:M2	桑村 航矢	原進 教授 航空宇宙工学専攻
平成30年7月2日	OSA Advanced Photonics Congress 2018 Best Student Paper Award 1st Prize	電子情報システム専攻	M2	Ganbold, Mungun-Erdene	Sonnenschein, Volker Thomas 助教 エネルギー理工学専攻 富田英生 准教授 エネルギー理工学専攻 林紀善 元M2 量子工学専攻(H30.3.31修了) 加藤修介 M2 エネルギー理工学専攻 金磊 元特任助教 電子工学専攻 山中真仁 助教 電子工学専攻 西澤典彦 教授 電子工学専攻 井口哲夫 教授 エネルギー理工学専攻、外3名
平成30年7月5日	日本アイソトープ協会 第22回 RADIOISOTOPES誌 論文奨励賞	エネルギー理工学専攻	D2	寺林 稜平	
平成30年7月6日	4th Molecular Chirality Asia (MCAsia 2018) Poster Award	物質制御工学専攻	D3	石立 涼馬	
平成30年7月6日	第40回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞	社会基盤工学専攻	M2	Farooq, Usman	中村光 教授 土木工学専攻 山本佳士 准教授 土木工学専攻 三浦泰人 助教 土木工学専攻
平成30年7月6日	第40回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞	社会基盤工学専攻	D2	Yang, Yizhou	中村光 教授 土木工学専攻 三浦泰人 助教 土木工学専攻 山本佳士 准教授 土木工学専攻
平成30年7月12日	The 22th International Symposium on Advanced Display Material & Devices 2018 (ADMD2018) Outstanding Poster Paper Award	有機・高分子化学専攻	M2	上田茉莉菜	原光生 助教 有機・高分子化学専攻 永野修作 准教授 V B L 関隆広 教授 有機・高分子化学専攻
平成30年7月12日	The 22th International Symposium on Advanced Display Material & Devices 2018 (ADMD2018) Outstanding Poster Paper Award	有機・高分子化学専攻	M2	末次 輝太	原光生 助教 有機・高分子化学専攻 永野修作 准教授 V B L 関隆広 教授 有機・高分子化学専攻、外1名
平成30年7月14日	第2回フォノンエンジニアリング研究グループ研究会 ポスター賞	結晶材料工学専攻	D3	高橋 恒太	
平成30年7月20日	International Conference on Science and Technology of Emerging Materials 2018(STEMa2018) ORAL PRESENTATION AWARD	化学・生物工学専攻	M2	高橋 博美	安井隆雄 准教授 生命分子工学専攻 嶋田泰祐 D2 生命分子工学専攻 馬場嘉信 教授 生命分子工学専攻、外3名
平成30年7月27日	27th International Liquid Crystal Conference (ILCC2018) ILCC-Kyoto Poster Award	物質制御工学専攻	D3	向井 孝次	原光生 助教 有機・高分子化学専攻 永野修作 准教授 V B L 関隆広 教授 有機・高分子化学専攻
平成30年7月27日	27th International Liquid Crystal Conference (ILCC2018) ILCC-Kyoto Poster Award	有機・高分子化学専攻	D1	北村 一晟	原光生 助教 有機・高分子化学専攻 永野修作 准教授 V B L 関隆広 教授 有機・高分子化学専攻
平成30年8月1日	18th International Conference on Atomic Layer Deposition / 5th International Atomic Layer Etching Workshop ALE EpiValence Poster Prize Winner	電子工学専攻	M1	長谷川将希	堀勝 教授 未来社会創造機構 石川健治 特任教授 プラズマノ工学研究センター 近藤博基 准教授 プラズマノ工学研究センター 堤藤嘉 助教 プラズマノ工学研究センター
平成30年8月8日	MIRU学生奨励賞	情報・通信工学専攻	M1	稲垣 安隆	
平成30年8月9日	9th Japan-Korea Seminar on Advanced Diagnostics for Steady-State Fusion Plasmas Poster Prize	総合エネルギー工学専攻	M2	田中 智代	
平成30年8月10日	6th International Solvothermal and Hydrothermal Association Conference (ISHA2018) ISHA2018 Graduate Student Awards	物質プロセス工学専攻	M2	近藤 宏紀	Wahyudiono 研究員 物質プロセス工学専攻 高田昇治 非常勤研究員 全学技術センター 神田英輝 助教 物質プロセス工学専攻 後藤元信 教授 物質プロセス工学専攻
平成30年8月11日	日本食品工学会第19回(2018年度)年次大会 優秀ポスター発表賞	物質プロセス工学専攻	M1	佐藤はるか	Wahyudiono 研究員 物質プロセス工学専攻 神田英輝 助教 物質プロセス工学専攻 後藤元信 教授 物質プロセス工学専攻、外3名
平成30年8月20日	平成30年度化学工学会室蘭大会 学生特別賞	材料デザイン工学専攻	M2	蔽下 翔	山本徹也 准教授 材料デザイン工学専攻
平成30年8月25日	東海高分子研究会学生研究奨励賞	有機・高分子化学専攻	M2	天野 真希	

学生 賞一覧						(平成29年度前期 一部平成28年度後期)	
受賞年月日	賞名等	所属	職名	氏名	連名者 所属・職名・氏名		
平成30年8月25日	東海高分子研究会学生研究奨励賞	有機・高分子化学専攻	M2	田中 良樹			
平成30年8月25日	東海高分子研究会学生研究奨励賞	有機・高分子化学専攻	M1	安藤 光香			
平成30年8月25日	東海高分子研究会学生研究奨励賞	有機・高分子化学専攻	M1	山本 敦士			
平成30年8月25日	東海高分子研究会学生研究奨励賞	生命分子工学専攻	M1	西川 慧史	樫田啓 浅沼浩之	准教授 教授 生命分子工学専攻 生命分子工学専攻	
平成30年8月25日	東海高分子研究会学生研究奨励賞	生命分子工学専攻	M2	重松 勇貴	村山恵司 浅沼浩之	助教 教授 生命分子工学専攻 生命分子工学専攻	
平成30年8月25日	東海高分子研究会学生研究奨励賞	有機・高分子化学専攻	M1	滝島 啓介	原光生 永野修作 関隆広	助教 准教授 教授 有機・高分子化学専攻 V B L 有機・高分子化学専攻	
平成30年8月28日	電気化学会東海支部・北陸支部合同シンポジウム(2018年東海地区 ヤングエレクトロケミスト研究会・光電気化学研究会) ポスター優秀賞	応用物質化学専攻	M1	森 優貴			
平成30年8月28日	IEEE VTS Tokyo Chapter 2018 Young Researcher's Encouragement Award	情報・通信工学専攻	M1	矢内 宏樹			
平成30年9月4日	MoDeSt2018: 10th International Conference of Modification, Degradation, & Stabilization of Polymers Best Poster Award (recognized by Biomacromolecules, ACS)	化学・生物工学科(G30)	B4	橋本 浩明			
平成30年9月5日	IEEE Computational Intelligence Society Japan Chapter Young Researcher Award (FSS)	情報・通信工学専攻	M2	谷崎 悠平			
平成30年9月6日	2018 KJF International Conference on Organic Materials for Electronics and Photonics (KJF-ICOMEF2018) Poster Award	物質制御工学専攻	D3	向井 孝次	原光生 永野修作 関隆広	助教 准教授 教授 有機・高分子化学専攻 V B L 有機・高分子化学専攻	
平成30年9月6日	2018 KJF International Conference on Organic Materials for Electronics and Photonics (KJF-ICOMEF 2018) BCSJ Award for Poster Presentation	有機・高分子化学専攻	D1	北村 一晟	原光生 永野修作 関隆広	助教 准教授 教授 有機・高分子化学専攻 V B L 有機・高分子化学専攻	
平成30年9月8日	第29回基礎有機化学討論会若手口頭発表賞 (Organic & Biomolecular Chemistry Award)	化学・生物工学専攻	D3	野澤 遼			
平成30年9月8日	第29回基礎有機化学討論会ポスター賞	有機・高分子化学専攻	M1	竹腰 遥			
平成30年9月8日	第29回基礎有機化学討論会ポスター賞	有機・高分子化学専攻	M1	Siham Asyiqin Shafie			
平成30年9月11日	日本物理学会学生優秀発表賞	エネルギー理工学専攻	M1	志満津宏樹	柚原淳司 伊藤公一 大田見生 洗平昌晃 黒澤昌志	准教授 元M2 助教 助教 講師 総合エネルギー工学専攻 量子工学専攻(H30.3.31修了) 電子工学専攻 未来材料・システム研究所 物質科学専攻、外1名	
平成30年9月13日	SSDM2018 Poster Presentation Award	物質科学専攻	M2	土井 拓馬	坂下満男 中塚理 財満鎮明	助教 教授 教授 物質科学専攻 物質科学専攻 未来材料・システム研究所、外2名	
平成30年9月14日	ヨウ素学会 優秀ポスター賞	有機・高分子化学専攻	D1	辻 泰隆	堀部貴大 石原一彰	特任助教 教授 有機・高分子化学専攻 有機・高分子化学専攻	
平成30年9月18日	第44回(2018年春季)応用物理学会講演奨励賞	電子工学専攻	M2	細井 祐吾	石川健司 橋爪博司 田中宏昌 堀勝	特任教授 特任助教 特任准教授 教授 プラスマナノ工学研究センター 未来社会創造機構 未来社会創造機構 未来社会創造機構、外2名	
平成30年9月18日	第44回(2018年春季)応用物理学会講演奨励賞	物質科学専攻	D2	JEON Jihee			
平成30年9月20日	FIT船井ベストペーパー賞	電子情報システム専攻	元:M2	小林 優斗	高橋桂太 藤井俊彰	准教授 教授 情報・通信工学専攻 情報・通信工学専攻	
平成30年9月20日	有機合成化学協会第35回有機合成化学セミナー 優秀ポスター賞	化学・生物工学専攻	D3	阪本 竜浩	波多野学 石原一彰	准教授 教授 有機・高分子化学専攻 有機・高分子化学専攻	
平成30年9月20日	FIT論文賞	情報・通信工学専攻	M2	小松 凜治	高橋桂太 藤井俊彰	准教授 教授 情報・通信工学専攻 情報・通信工学専攻	
平成30年9月20日	日本金属学会 2018年秋期(第163回)講演大会 第31回 優秀ポスター賞	物質科学専攻	M2	長原 亮太	浮田昌也 大島優 横井達矢 中村篤智 松永克志	D3 D1 助教 准教授 教授 マテリアル理工学専攻 物質科学専攻 物質科学専攻 物質科学専攻 物質科学専攻	
平成30年9月28日	第122回触媒討論会 学生口頭発表賞	応用物質化学専攻	M2	加藤 颯介	大山順也 薩摩篤	元:助教(応用物質化学専攻) (現:熊本大学准教授) 教授 工学研究科	
平成30年10月12日	電子情報通信学会 2017年度WBS小特集号学生奨励賞	電子情報システム専攻	D3	木下 雅之			

名古屋大学特定基金工学部・工学研究科支援基金 ：NUDF-e ご支援のお願い

「名古屋大学基金」は、創基150周年を目指して更に充実すべく、卒業生、企業・団体、個人の皆様にご協力をお願いしておりますが、「名古屋大学基金」は、いただいた寄附金を基金として積立て、その運用益で各種の事業を展開するものであり、昨今の厳しい経済状況及び金利の中、十分な運用

益を上げることが厳しい状況となっております。

そのため「名古屋大学基金」は、寄附金の運用益による事業とは別に、寄附金の一部を直接支出できる「特定基金」を設け、学生育英等の部局事業に活用することとなりました。

1 事業の内容

ご寄附いただいた特定基金は、その一部を名古屋大学基金として運営しますが、工学部・工学研究科が行う次の事業に活用させていただきます。人材育成の一層の充実を図ります。

なお、ご寄附いただく個人、法人、団体等が用途を希望される場合は、そのご意向に沿って有効に活用させていただきます。

学生育英事業

日本の将来を担う優秀な学生(特に大学院博士課程学生)への奨学金制度を創設し、学生が思う存分学業に専念できるよう、経済的な支援を行います。

教育・研究事業

共同研究奨励制度(仮称)を創設し、国際的に幅広く活躍できる若手研究者の育成や萌芽的研究を含む分野横断型研究への支援を行います。また、学生のインターンシップや海外派遣経費等の支援を行います。

2 ご協力をお願いしたい金額

1口 10,000 円

※ 本基金の趣旨をご理解いただき、複数口のご協力をお願いいたします。

※ 分割納付によるご寄附も可能です。

※ 毎年入学する学生や継続した研究のため、なにとぞ継続したご寄附をお願いいたします。

なお、土地の寄附、建物建築による寄附、遺贈による寄附など多様な寄附形態も受け付けさせていただきます。

3 お申込み方法

基金へのお申込みは、多様な形態をご用意しております。いずれの場合も「特定基金 工学部・工学研究科支援事業」をご指定願います。

銀行・郵便局で振込用紙による方法

基金事務局まで電話(052-789-2011、4993)又はEメール(kikin@adm.nagoya-u.ac.jp)

でご連絡ください。専用の振込用紙を送付させていただきます。

ご連絡は、下記の工学部・工学研究科事務部総務課(工学基金事務局)でも結構です。

クレジットカードによる方法

ご利用いただけるカードは、VISA, MasterCard 等です。

名古屋大学基金のHP(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>)からお申込みください。

用途・目的を、「特定基金 工学部・工学研究科支援事業」としてください。

インターネットバンキングによる方法

取り扱い可能な金融機関の「インターネットバンキング」に口座をお持ちの方はご利用できます。

名古屋大学基金のHP(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>)からお申込みください。

用途・目的を、「特定基金 工学部・工学研究科支援事業」としてください。

4 税法上の優遇措置

寄付金には、税法上の優遇措置があります。

5 特典

ご寄附をいただいた方には、名古屋大学基金の特典のほか、工学部・工学研究科の特典をご用意しております。

詳しくはこちらから

名古屋大学基金HP ▶ <http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

工学部・工学研究科HP ▶ <http://www.engg.nagoya-u.ac.jp>

ご覧いただき、ご不明な点がございましたらお問合せください。

お問い合わせ先

名古屋大学工学部・工学研究科事務部総務課(工学基金事務局)

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-3404 E-mail: kou-kikin@adm.nagoya-u.ac.jp

BACK NUMBER

No.43

June 2018



特集1 | 工学研究科附属フライト総合工学教育研究センター設立にあたって
特集2 | 熱可塑性CFRP(炭素繊維強化プラスチック)を用いた研究開発について

工学研究科ニュース / 未来の研究者 FILE047: 小田切 公秀 / 未来の研究者 FILE048: 石立 涼馬 / 研究紹介「酸化ナノファイバを使って尿からがんを診断する」: 安井 隆雄(生命分子工学専攻 准教授) / 研究紹介「コンピュータに文章を書かせるためにはどうすればよいか」: 佐藤 理史(情報・通信工学専攻 教授) / 工学研究科データボックス / 工学部・工学研究科支援基金案内

No.39

June 2016



特集1 | 予防早期医療創成センターの新設
—多分野産学連携による「健康寿命の延伸」への貢献を目指して—
特集2 | ●附属プラズマナノ工学研究センター
—社会イノベーションを目指した先端プラズマナノ科学—
●附属材料/バックキャストテクノロジ研究センター
●附属計算科学連携教育研究センターの紹介
●附属マイクロ/ナノメトロニクス研究センターと共用設備群の紹介

工学研究科ニュース / 未来の研究者 FILE039: 市原 大輔 / 未来の研究者 FILE040: 杉浦 広岐 / 研究紹介「生活支援ロボット分野の安全研究」: 山田 陽滋(機械理工学専攻 教授) / 研究紹介「6億分の1の希少細胞を分取する」: 益田 泰輔(マイクロ/ナノシステム工学専攻 特任准教授) / 工学研究科データボックス

No.42

December 2017



特集1 | テクノ・フェア名大2017を開催
特集2 | 「オークマ工作機械工学館」寄附に関する共同記者会見を開催

工学研究科ニュース / 未来の研究者 FILE045: 村手 宏輔 / 未来の研究者 FILE046: 丹波 高裕 / 研究紹介「DNAを使ってナノ粒子の超格子構造を思い通りに制御する」: 田川 美穂(未来材料・システム研究所 准教授) / 研究紹介「微細領域の世界を変革する光電子ビームの研究開発」: 西谷 智博(シンクロトン光研究センター 特任准教授) / 工学研究科データボックス / 工学部・工学研究科支援基金案内

No.38

December 2015



特集1 | テクノ・フェア2015「一名大発・技術移転の萌芽」が開催される
特集2 | 未来社会創造機構 —名古屋大学における今後の産学連携—
特集3 | 「2015工学部オープンキャンパス」が開催される

工学研究科ニュース / 未来の研究者 FILE037: 田口 勝久 / 未来の研究者 FILE038: 溝口 裕太 / 研究紹介「白と黒の物質から鮮やかな色を示す材料を作る」: 竹岡 敬和(物質制御工学専攻 准教授) / 研究紹介「微細気泡を活用して資源回収・環境浄化する新技術の開発」: 安田 啓司(化学・生物工学専攻 准教授) / 工学研究科データボックス

No.41

June 2017



特集1 | 平成29年度工学部・工学研究科改組について
特集2 | 先進モビリティプログラム開設にあたって
特集3 | 実機飛行を通じた航空実践教育の展開
特集4 | ナショナルコンポジットセンター(NCC)プロジェクトがナノテク大賞受賞

工学研究科ニュース / 未来の研究者 FILE043: 山下 賢二 / 未来の研究者 FILE044: 高橋 恒太 / 研究紹介「トランスジェニック鳥類を用いた有用タンパク質生産技術の開発」: 金岡 英徳(生命分子工学専攻 助教) / 研究紹介「土木構造物を疲労から守る」: 判治 剛(土木工学専攻 准教授) / 工学研究科データボックス / 工学部・工学研究科支援基金案内

本号の特集1では、10月20日に開催された「テクノ・フェア名大2018-未来を創造する力-」を取り上げています。特集2では、プラズマバイオコンソーシアムの設立について紹介しています。

このほか、本ナンバーでは研究科ニュースとして、平野真一名誉教授の平成30年春の叙勲、卓越大学院の採択のほか、今年度上半期に開催された行事を取り上げております。

社会連携委員会では、工学研究科の対外的な産学連携活動を一層円滑に、そして戦略的に進めるとともに、活動の状況を社会に向けてタイムリーに発信していきます。

また、来年度より一層の紙面充実のため年一回(12月)発行いたします。

平成30年度 社会連携委員長 早川 直樹

No.40

December 2016



特集1 | テクノ・フェア名大2016を開催
特集2 | 未来エレクトロニクス集積研究センターの紹介
特集3 | 学術研究・産学連携推進本部
—「お付き合い」の産学連携から「本格的な産学共同研究」へ—

工学研究科ニュース / 未来の研究者 FILE041: 伊藤 寛 / 未来の研究者 FILE042: 上田 恒 / 研究紹介「弱い力を協奏的に使ってナノ材料をつくる」: 鳴瀬 彩絵(結晶材料工学専攻 准教授) / 研究紹介「無機結晶中で現れる「量体化」を制御し機能を生み出す」: 片山 尚幸(マテリアル理工学専攻 准教授) / 工学研究科データボックス

PRESSe [名古屋大学工学研究科情報誌] No.44 2018年12月発行

編集発行 名古屋大学工学研究科社会連携委員会
〒464-8603 名古屋市中千種区不老町
TEL.052-789-3406(総務課総務係)
FAX.052-789-3100(総務課総務係)

印刷 ニッコアイエム株式会社



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY



ES総合館
Engineering and Science Building

工学研究科中央棟・素粒子宇宙研究棟
Central Building of Graduate School of
Particle and Astrophysical Science

工学研究科
事務部

Graduate School of Engineering
Administration Bureau

環境学研究科
都市環境学専攻

Graduate School of Environmental Studies
Environmental Engineering and Architecture

理学研究科

Graduate School of Science
Particle and Astrophysical Science

素粒子宇宙物理学専攻

Kobayashi-Maskawa Institute for
the Origin of Particles and the Universe

素粒子宇宙起源研究機構

全学共用教育研究施設

Inter-Departmental Education and Research Facilities

「PRESS e」の裏表紙(本頁)は工学研究科のためのフリースペースです。フォーラム、シンポジウム等の告知、研究室の紹介等でご使用の希望がございましたら、ぜひご相談ください。

名古屋大学 工学研究科

〒464-8603 名古屋市千種区不老町
TEL.052-789-3406 (総務課総務係)

<http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/>

「PRESS e」のバックナンバーは名古屋大学工学部ホームページ(http://cd.engg.nagoya-u.ac.jp/press_e/)でもご覧いただけます。

